愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月五日二十日發行

一部金參錢　一ヶ月金六錢　半年分參拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部禁轉載
發行所　東京麹町區（千ヶ淵公園）愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

愛國婦人會の目的は遺族及癈兵を救護するにあり

社説

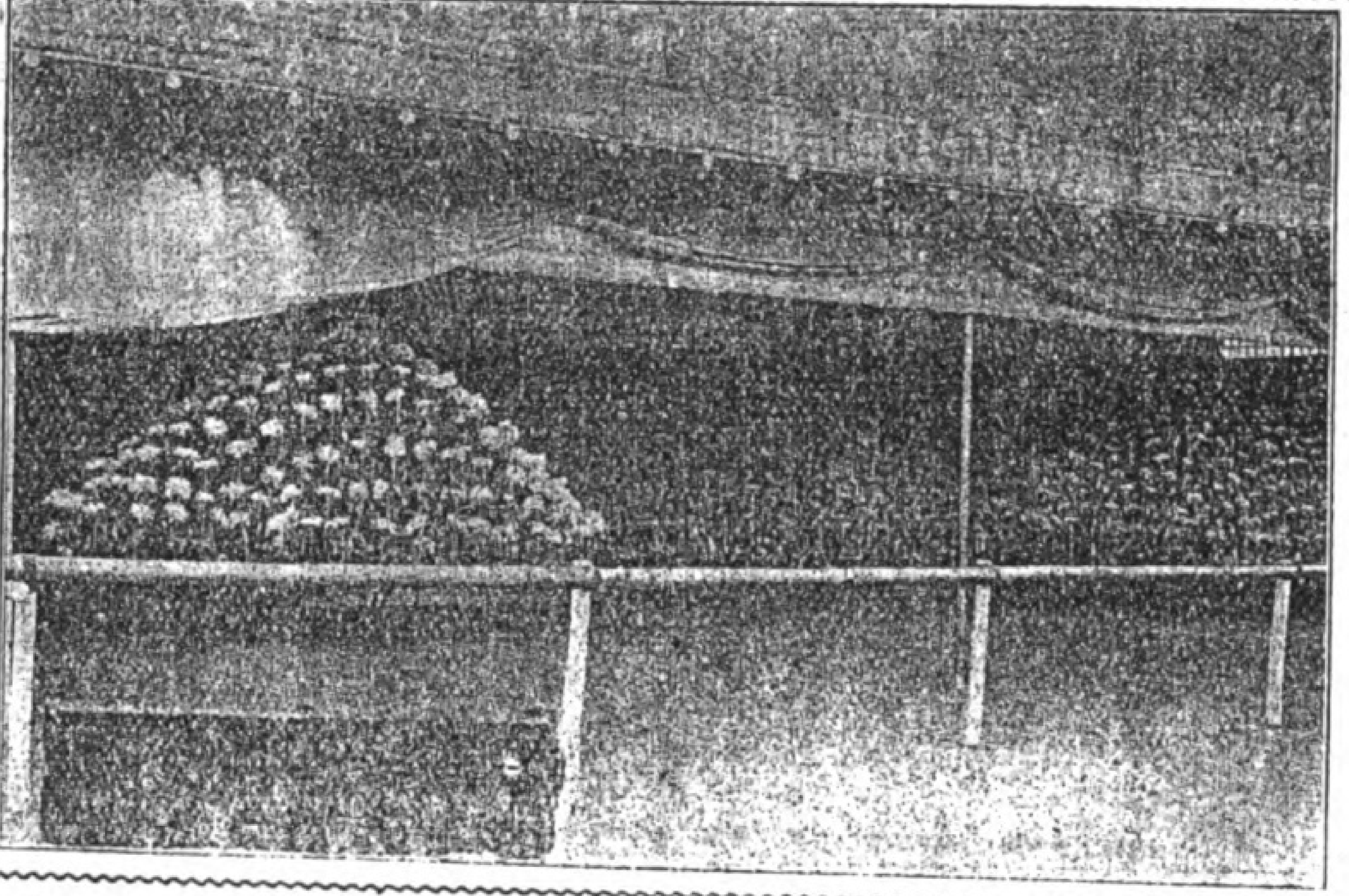
小事を忽にする勿れ

大行は細瑾を顧みずとは、間違なり、大行の成る見込みなくして、横着の仕たき者の遁げ言葉なり。詰らぬ玉なら、瑕ありとも惜しくはなけれど、立派なものほど、瑕が目に立ちて、一段と値が下るものなり。されと大行あれは、小しの遣り損ひは、差引きしても、尚殘る所あれども、大行なくして、遣り損ひのみにては、一向取柄なきものなり。

人間は大きな事よりも、小い事にて却て値打は定まるものなり、余所行きの目立つた所より、通例不用意の所に、本統にて人は分るものなり、一言一行の麁末にてきぬ所以なり。人の信用を得、見出しに預るといふも、小い事を忽にせず、萬に氣が付きて、これならば大事を托するも安心なりと見込まるればなり、始より、大事を任して試めす者はあるべからず。一事は萬事にて、其一事が不親切にて、間に合せなるより、これては兎ても見切られて、折角頼まんと出しかけた大事も、見合せとなりて、詰まりは重く用ゐられず、千里の馬あれども、世に伯樂なしなど、自分の落度は棚に上げて、世を恨み、人を嫉むこととなるなり。秀吉が信長に見知られたるも、小才が利きて重寳がられたればなり、三成が秀吉に識られたるも、茶の飲まし方が、氣が利きたればなり、斯くの如く大きな事より、一寸した事て、人は分るものなれば、是から世に出てんとする者は此所を充分飲み込まざるべからず。然らされば其人の前途も、先は見込みなき者と知るべし。

獨り是からといふ人のみならず、既に世に立てる者にても、此心掛け肝要なり、殊に人の上に立つ者は、万事に行き屆きて、よく人を見てやり、まさかと思ふ所にも氣が付かねば、人を服し、人が遣へるものにあらず、ナポレオンが兵卒の名を呼んだといふ事が、其號令よりも、何よりも軍隊を死ぬる氣にさしたるなり、大きな人はボンヤリしたるやうにても、何處かに氣の付く所あるものなり。

我々は婦人なり、秀吉や、ナポレオンを例に出されても、役に立たずと、讀まれては、張り合がなし。飯は誰れでも食べるが如く、以上は男女を論せず、凡人にも偉人にも當て箝るものなり。殊に婦人には飛び抜けて大きな仕事といふものはなきものにて、毎日限りなき小事を整頓處理して行く所に、婦人の大はあるものなれば、あれも小事、これも小事と棄て置かば、詰まり婦人はなきものなり。鹽が過ぎた、醤油が足らなんだは、少々の事の如きも決して然らず、加減を好くして、甘く食べさせるといふ、婦人の役目なり、坐敷に反古の轉げて居り、下駄に土が附いて居るのは、何でもなきが如きも、それが家政のだらしなき一端とせば、婦人としての面目はなかるべし、其他薪の焚き方より、大根胡蘿蔔の買ひ方に至るまて、些細の違ひが、積つて大違ひとなり、家藏の建て崩しともなるものなれば、婦人こそは、最もこの小事に注意すべきものなれ。煉瓦の一ツづつが積んで家となり、一秒一秒か寄つて一生となり、一粒の米が溜つて、日本人の命の親となるにも思ひ合せて、實行すべき所のものなり。



酒井伯爵邸の菊花壇

母の内證

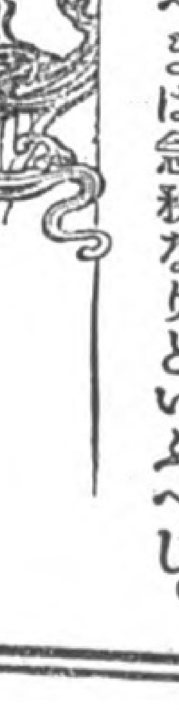
子供の育ちの善し惡しは、大方は母の仕付にあるものなり、父は嚴格にて、子供も畏れて、多少容赦の氣味あれども、母は兎角愛に溺れて、甘きより、子供が付け上りて、ややもすれば、仕様のなき人間となるあり。それには内證といふもの一番惡しきなり。例せば、父が子供は小い時から餘り足り過ぎては可かぬとて、其積りにて物を宛てがふなるに、母はあれては可愛相だとか何とか言ひて、父に内證にて小遣錢など遣るより、子供は味つきて、母にねだりて、先づ買ひ食ひより始めて、段々と惡い方にはまり、美事成り損ねた曉、やれ道樂者よ不孝者よと子が自分でなつたかのやう憤り、泣くに至る。これ詰まりは大なる慈悲を、小なる慈悲の犧牲とせるものにて、眞に子を愛する所以にあらず。されば母は一より十まで父と相談して、同じ方針に歩調を揃へて、子は教育すべく、子の同類になりて、父の裏を行くやうの事あるべからず、世間往々惡るくなりかかれる子を見て、また母がと思はるることあれば、念の爲め一言するものなり。

婦人界の活動

戰後各方面の事業は頗る活氣を呈し來りて、殊に實業方面には、數多の會社など勃興して、素晴らしき景氣なるが、獨り婦人は大砲の音止みたると共に、火の消へたるが如く、何等活動の見るべきものなきは何ぞや、婦人の仕事は戰時よりも寧ろ平時にあるものなり、偶々婦人の會はありても、見たり食べたりの會多くして、有益なる事業を目論見て、是から一つ遣りませうなど力むものなきは、誠に飽かず口惜しく思はるるなり。然るに此秋に當り獨り我愛國婦人會のあるあり、絶へず活動して五十萬の會員を增加して百萬に達せしめんとの計畫を立て畏くも總裁殿下は各地の支部總會に臨ませられ、又韓國に於て迄支部總會を開き、伊藤統監の臨場あるが如き、獅々奮迅の勢を以て進步しつつあるは、婦人界の爲に慶せざる可からず、大日本は男子の大日本たると共に、婦人の大日本ならざるべからず、我等は婦人に一層の努力を望むものなり。

支那人の規模

支那は流石に大國にて、萬事規模に大きな所あるが中にも、近年留學生の渡來の如き、其最も著しきものなり。日本より海外に留學せるものは、文部省の留學生を始め、官費私費合せて、五百人は兎ても居らざるべし。然るにたとへ近國とはいへ、二萬近き留學生が、一度に押し寄せ來るといふは、支那てなくては、出來ぬことなり、又先日は各省の提學者が十三人揃ふて渡來し、教育の調査視察をなしたるあり。支那の將來は見物なり、我國が何時までも先生顏して居らば、不覺を取るに至るべし、常に有爲の士を海外諸國に派して、世界の進步に後れざるやう努めざるべからず、それには婦人も行くべし、支那よりも婦人の留學生數十人來り居るが如く、日本の婦人も時間と餘裕あるものは海外殊に西洋に出掛けて實際向ふの婦人は、如何程教育を受けて如何なる働きを爲し居るかを見て來るべし、これ同性のため國家のため、今日婦人の奮發すべきは急務なりといふべし。



枯れ葉

岩野泡鳴

枯れ葉にも
魂はありける、
靜かなる
空を花蝶。

とり〴〵に
舞ひつ、纏ひつ、
音を忍ぶ
別れの歎き。

高幹の
枝にさかりて、
沈み行く
この世やいづこ。

一つ枝に
またと見まじを、
親しみは
苦の穗ずゑのみ。

電話番町五百二十番

◎本號には愛國婦人會北海道支部總會式場光景を寫眞版附録とす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

慈善の眞意義

後藤新平

慈善の眞意義を充分に解釋した人は少いやうである、多くの學説に依ると、慈善事業と云ふことは天道自然の道理に適合したもの、言葉を替へて云へば慈善は天意であると云ふのであるが、吾輩の見解はこれと異つて居る、弱肉强食と云ふことが天道の自然であつて、弱いものは亡び强いものは榮ゆると云ふ調子に、今や貧窮の極死に瀕して居るものがあつても、天道はこれを助けやうとせず其儘に放任して居るのである、死ぬるのは自然であつて、天道は手を伸ばして敢てこれを助ける要を認て居らぬのである、然るに苟も人類が相集つて社會を形づくる以上は、其同胞姉妹が貧窮に陷つて死に瀕して居る場合、これを助けずには居られぬ、これを助けるのは人道であつて天道ではない、人を助けることが天意であるからこの意を以て人が慈善をなすのではない、人情忍ぶべからざる處があるに依つて、禁ぜんと欲して禁ずる能はざる同情の念よりして救ふのである、要するに慈善行爲は、人道を以て天道の無情を補ふものであると斷言してよからう。

一體慈善事業と云ふことには同情の念が伴はなくてはならぬ、故にこの事業に從事するものは、社會の同情を惹起すべく勉めることが必要である、同情の念は人類の中でも女性の方が餘計に富むで居るのであるから、女性を基礎として慈善會を組織することは、最も其當を得たものと云はねばならぬ、次に慈善を行ふに當つて大に注意を要することがある、それは貧困に陷つたものを救ふことに勉めるよりは、今正に貧困に陷らんとしつつあるものを未然に豫防することである、假令ば酒を飲む爲めに貧困に陷るものが多ければ、其貧困者を救ふて酒を飲むやうにするよりは、他の者に其根源たる酒を飲ませぬ工夫を計り、西洋で行はれてあるやうに、勞働者には或る分量以上の酒を酒屋で賣らさぬと云ふ掟を設けるが如きことが必要である。

慈善と云ふことの眞意義を叩けば斯くの如きものであるから、軍人の遺家族が貧困に陷つて居る場合でも、母と子と何れを救ふが至當かと云へば、母を救ふよりは先づ子を救ひ、其子をして再び貧困に陷らさぬやうにすることが必要であると思ふ、元來日本では慈善事業が未だ充分に發達して居らぬ爲めに、救貧事業を民間有志の手にのみ委ねて居つて、國家は殆と助長の方策を取らぬ傾きがあるが、救貧事業は國家行政の最大要部を占めて居るものであつて、國家の發達と共に國家の力を以ても充分に其助長の方策を執らねばならぬことと信ずる。

家族制と個人制

海老名彈正

家族制時代に於ける人民の精神的觀念は、自己と云ふ念が甚だ薄く、只團體の爲めの我と云ふ觀念のみ深かつた、從つて服從的精神が善く養はれて居る、これが爲めに軍隊の如きも甚だ鞏固となり、父子兄弟親族の間柄も非常に親密になつたのである、我軍の世界に冠たる所以も蓋しこれに起因して居るのであつて、此點は實に家族制の長所と云はねばならぬ、而してこの長所に伴ふ短所を擧ぐれば、家族制は個人の發達を妨ぐるのみでなく社會全體が進歩せぬ傾きとなる、何故なれば只祖先の爲めにするとか、或は其遺風を守るとか云ふ風で、總て舊來の形式にのみ拘泥し、自己獨立の斷判を下すの餘地が無いから、自己の天性を發揮することが出來ぬ、假令ば親が醫者である時は、其子供が醫者に適するや否やを問はずして、必ず醫者とならねばならぬことに極まつて居る、若し幸に其子が醫者に適したる天性を有つて生れたなれば幸福であるが、他の方面に於て萬人に勝れたる技量を有つて生れたとすれば、甚だ惜むべき次第である、これは一例に過ぎぬが、此樣な有樣が總ての方面に行なはれて、活氣の無い社會となるのである。

個人制の主義とする所は、自己を中心として、自己の發達を計り、自分が主となり祖先ともなるの考へを有つから、子孫に對しても自己と云ふ觀念が强く、責任を重んじ、其働き、其品性は云ふまでもなく、自己の身體を大切にすることに深き注意を拂ふ、歐米諸國が今日の如き隆盛を極むるに至りし其原因も、又個人性の賜であると云はねばならぬ、個人性が發達せねば、決して道德學術及び經濟上の發達進歩は見ることが出來ないのである、併し個人制の發達は一方に獨立心を養ふの長所あれど、其弊として利己我儘主義、不遜主義等に陷る傾向があり、極端なる個人主義になると、只自己あるを知つて更に他を顧みぬと云ふ有樣となるから服從の念に乏しく、爲めに家庭に於ても圓滿を缺き、國家的結合の觀念を失ひ遂に無政府主義の人などを輩出するのである、故に個人制の短所としては人心互に分離し、罪惡盛んに行はれ、家庭の不和に伴ふ道德の紊亂を來し、結局國家社會の秩序を保つことの出來ないやうな場合に立至るのである。

要するに目下の日本は個人制の發達よりは、家族制に重きを置く傾があるから、自分の考へでは兩者の得失を斟酌して、或程度までは個人の天性を圓滿に發達せしむる方法を取るが宜いと思ふ。

見落し給ふ勿れ

明治四十年宮中歌御會始御題は「新年松」と仰出されたり、依て我發行所は廣く我會員の詠進を求め、大口鯛二氏の選定を經てこれを取纏め詠進の手續を取計はんとす、規定左の通り

一期限　十二月二十日限り
一用紙　半紙
一句數　三首限り
一住所姓名及華士族平民の區別を認める可き事

韓國經營と日本婦人

韓國統監府書記官　金山尙志

韓國を經營するに就ては、只表面上の事柄のみでは充分なる効果を奏することが出來ません、裏面に於て日韓兩國人種の融和を計り、互に兄弟姉妹の如く交際する樣にならなくては眞の統御は得れぬ、斯の如き懇ろなる交際を始むるのは、單に男子のみでは成功しない、婦人同志が互に交際すると云ふことが緊要であります、處が韓國では婦人が外に出て他人と交際することは殆ど出來ない風習になつて居りますから、此風習からして改良せねばなりませんが、元來韓國人は男子よりは婦人の方が善く開けて居りまして、智識も發達して居るのでありますから、これを善く誘掖指導して、交際より卒く興味を感んずる樣にしたなれば、必ずや善き結果を得ることと思ひます、而して此誘掖指導の任に當る人は則ち日本婦人で無くてはなりません、故に私共は教育ある日本婦人が澤山に韓國に向はるゝ事を希望して居ります、のみならず韓國に職を奉ずる者も又成るべく其妻子を携へて赴くことを奬勵して居る次第であります、幸に愛國婦人會の支部が京城に置かるゝこととなりまして、本月始めに發會式を擧げました、其席には韓國上流の婦人も會員として出席せられ韓國男女の來賓も非常な滿足を得たとのことでありますから或は是れが起源となつて兩國間の婦人の交際が親密になり、從つて同國統御の上にも至大なる好結果を得るに至ることと確く信じて居ります。

滿洲に於ける日本婦人

關東總督府事務官　關屋貞三郎

日本が戰勝の結果として得たる滿洲の權力地に對しては、日本人は男子は勿論女子と雖も、全力を注いでこれを經營するの考へが無くてはなりません、今や日本婦人の大連に居る人數丈けでも三千人に及んで居ります、日本人の爲めに小學校も建てられ、生徒が二百五十人も居ります、又旅順港に於ても小學生徒が百五十人から居りまして、現今では官民共に妻子を携帶して移住する人が多くなつて居ります、大連は東京の氣候と比べて見ても格別寒いと云ふ程でもありません、而已ならず今日では秩序が總て回復されて何等の危險も無く、交通も便利で、東京から鹿兒島へ行くよりは倚早く着く、萬貨輻輳内外の食物に何等の不自由も感じませんから、幸福なる生活を營む事が出來ます、妻子相携へて共棲せば氣も他に散らず、所謂圓滿なる一家團欒の實を擧げることが出來ると思ひます、又子を教育する上に於ても、精神上の利益が少く無いことと思ひます、其理由は兎に角滿洲の地でも外國であれば、日本が新勢力に依つて日夜これを經營する有樣を知らず〳〵の間に腦裡に刻み付け、他日青年時代になつて海外に於て大事業を興さんとするの觀念を養成することが出來るかと思ひます、又婦人の思想にも一革進の動機を作り、外國の地に在ることを覺り、自然氣の張合も出來、夫を助けて日本國の新經營に當の勇氣と膽力とを起させ、爲に身體も壯健になるかと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

落葉

―ノ瀬はつ子

一

銀杏の葉が散ると思ひ出す。

僕の村の鎮守の社の廣前に大きな高い銀杏の木があつた、春風の吹いた翌朝である、平素の如く早く起きて眞先にとかけつけた、今朝は隨分落ちて居やうと勇んで飛び出したのであるが、どうだらう、探しても／＼、夫こそ草を分けて探しても只の四つ、いつも兩手にあまり懷を膨らす銀杏の實が只の四つではないか。

明る朝も行つた、その次も行つた、三日目の朝も行つた、然雖同じてある。

一度は我慢し、二度は堪へた、三度も忍んで四日目の朝また空しく引かした僕は、忌々しくて耐まらない、誰が僕より先に行つて拾つてしまふんだらう、こん畜生覺えてをれ、と翌日は大奮發をやつて夜も明けやらぬ四時といふに床を出て、誰にも見つからぬ樣にと裏道をぬけて社の横に出た、そして御堂の蔭に身をかくして、小さくなつて待つて居た。

夜はほんのりと白みそめる。

ガサ／＼と落葉をふむ足音がする、案外に優しい、何だか氣味が惡るい樣にもあつて、おづ／＼首をさしのべると確かに人である、而かも僕よりも小さい人間だ、と僕はスット立つて瞳をこらした。

意外、意外、實に意外ではないか、まだ明けやらぬ銀杏の木かげに夢の樣に描かれたのは、あゝ美しいと思つた同級の藤江さん！

僕は藤江さんをよく知つて居る、母樣もいつもほめて／＼ほめぬいて居らつしやる、いつかも温かい小春日の光を浴びて御仕事の傍ら、僕に色々な話をして下さつた、丁度其時藤江さんが小さな聲て唱歌を唄ひながら向ふの畔路を通ると、「達夫にもあんなお嫁さんが欲しいねと仰しやつた、僕は子供心に耻しくて顏を赤らめたが、今も亦それを思ひ出すと何だかきまりが惡いやうて……、でも僕は何となく嬉しくまたなつかしいやうな氣がした。

二

「藤江さん

突如、かういふと、びつくりして一足退いたが、ジッとすかし見て

「達夫さんなの？　あら

と、ニッコリした其面よ、僕は今なほ忘るゝ事が出來ない

「拾ひに來たの、藤江さん

「え達夫さんも……？

「あ、貴女てせう毎朝來るな

「えゝ

と藤江さんは點頭いた。

「拾つてどうするの？

「あのお隣の秀さんにやるの

「秀作に？　然？　なぜ？

「あのね賣るんですつて、秀さんの父樣病氣て臥てるてせう、兄さんは居なくなつたし、秀さんが一人て働いてお米もお鹽も買はなきやならないてせう、秀さんだつて私のやうな子供ですもの、だから町に野菜を賣りに出る時に持つて行つてね、……え、あの町にゆくと銀杏も買はれるつていふから拾つてやるの

と、しんみりして小さき胸の滿腔の同情をもらした、僕も何かなし引入れられるやうな氣がして悲しいやうになつて

「ぢや僕も拾つて上げやう

と二人てむつまじく拾ひはじめた。

「澤山よ、澤山よ、有がとう、達夫さんも持つて御出でなさいな、え半分にしませうか

と藤江さんは一ぱいになつた籠の中を嬉しさうに樂しさうにのぞいて、から云つた、その顏がもう、はつきりなつて、下手な鳥がカア／＼と鳴いた。

「いゝよ、僕銀杏なんざ、いらないや

と今朝の今朝まて、今の今まて、これがために使役せられて寒さ、淋しさをも厭ひなく、かくて走せつけた僕が、心機一轉、いつの間にか、こんなことをいふ。

三

それはかりてなく、僕は家にためて置いた分も殘りなく投げ出してやつた、藤江さんは拜むやうに頭を下げた、嬉しいのは藤江さんばかりぢやない、僕もうれしい、眞にうれしかつた。實に愉快、僕が眞に自ら愉快と思つたことの中に、この時程滿足に愉快を感じたことはない、人を喜ばせるの愉快は神聖なる愉快中の大愉快なることを今も忘れる事が出來ぬ。

其後といふものは毎朝、藤江さんと僕とが眞先に行つて拾つては、ふんて實を出し、社の森を抱くやうに流れて居るきれいな川に洗つて、二人て秀作の家に持つて行つた。

もう秋も深くなつて、金色の葉も落ちつくし、さしもの銀杏も冬枯れの淋しい頃となつた、と藤江さんの一家は何故か急に引拂つて遠くに移ることになつた。僕は何だか悲しい、なんだかやりたくない。

「藤江さん達者にして御出よ

といふと、

「達夫さんも達者に、……

といつて可愛い手で涙を拭ふた。

「ねえ、そして、いつ迄も忘れんてよ

「えゝ貴君もキッとよ

といつたが僕は只悲しい。

以來七年、僕はなほ忘れることが出來ぬ、子供心にも深く／＼刻まれたるその記憶はつひに去る事が出來ないのである、その美しい顏よりも、その美しい姿よりも、只其優しい心根が……あゝ實に僕を、とりこにした。

彼女も、モウ立派な乙女となつた頃である、人の話に、どつかの女工になつてるとの事てあるが、さてもどうしたらう、……あゝ、あの美しい心の藤江さんが哀れな女工などゝなつて、我儘な、不品行な、つまらない奴が生れながらの富豪の令孃か……と思へば世の中の何かいやになつて來る、僕の樣な冷靜なりと云はるゝ者さへかうてある、況してや不平家の心はどうてあらう、とこんな事を思つて立つて居ると、思ひ出した樣な風が吹いて、意あり氣の、金色の木の葉がはら／＼と降つた。

と僕は一葉を受けて、そつと接吻した、あゝこれを送りたい―

(をはり)

東西名婦傳

ヴイマー侯妃（中）

文學士　原　篠川

アマリア丁年に達するや、獨立して國政を執り、民人の利益を重んじて、頗る釐革する所あり、傍ら敎育の足らざるを察し、先づ己を敎へんと努めぬ、但しアマリア侯妃の嗜好は、科學よりも文藝の側に在り、主として繪畫、音樂、語學を修む、就中語學の才に富み、希臘語を學び、拉丁語を習ひ、伊太利語に熟す、乃ちアリストファネスの喜劇を喜び、プロペルツ等の短詩を翫び、ヰーランドの「白猫」を伊語に飜譯せる事あり、佛國言語學者ヰロアソンが、天才裕なる侯妃と推重せしも宜なり。

從うて甚だ演劇を好み、或は宮中に假裝劇を催し、自ら假裝して之に交り、或は素人演劇を仕組みて、二見を携へて登場せる事ありしと云ふ、夫のエッテルスブルクの劇場は、侯妃が建造せしものにして、今日尚其の遺材を得べく、登場せる人物の姓名も、磨滅せるまゝ殘存せりとか、行人憑弔して感極らじ。

更に自然の風物を愛するや、ティーフルト城側の公園を改造して、林樾泉石の風致を加へ、群客が四方の勝景を說くを聞いては、技癢殆んど堪ふる事能はず、一千七百八十八年、アインジーデル等を從へ、凜然として南伊太利に赴く、フローレンツ、ローム、ネアーペル等を巡歷し、遙に千年の歷史を考へ、近く山河の變態なきを見、名人を一基の墓標に弔うて、宮殿寺院に其の遺作に渇仰す、平常の宿願漸く滿ちては、三年の日月瞬く間とも覺えず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

借金しても家を建築せよ

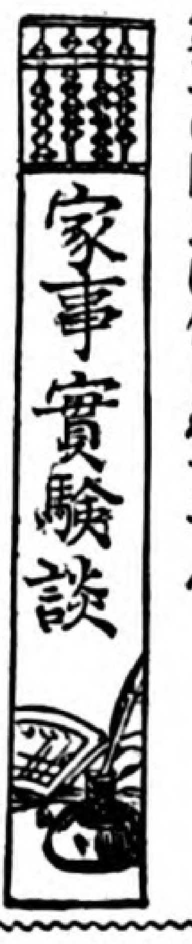
第一生命相互保險會社　矢野恒太

私の會社では日本橋の中央へ大きな家を建てましたが、これは一面には會社の存在を社會に示す爲めの廣告用に建てたのであります、商業家に在つては其店の信用上大きな家を持つと云ふことも必要であります、借て一般個人としては家を持つことが必要であるか否やは一の問題でありますが、私は子弟の教育の爲めには是非共家を持つが必要であると思ひます、何故かと云へば、何程立派な生活をして居ても、貸家に住んで居ては子供が我が屋を大切にすると云ふ觀念に乏しく一樹一草を植ゆるに於ても我が所有物であると云ふ考へがなく、根柢の鞏固なる我が城郭の内に住んで家庭を形作つて居る自由獨立の國民であると云ふ思想が薄く、我家并に我が家庭の貴ぶ可きことを其の腦裡に染み込ますことが難いかと思ひます、然るに世の狀態を見ますに、人生の中で働き盛りは凡そ三十歲から四十歲の間でありまして、五十歲位になつて始めて富も出來、夫れから漸く家の建築に係りますが、其家が折角出來上つたかと思ふとこれに住む暇も無く死んで仕舞ひ、働き盛りの間は實に不自由な家に居ると云ふのが普通の狀態であります、私の考へでは或る場合には借金をしてゞも家を建て働き盛りの間に於てこれに住むと云ふことが必要かと思ひます、昔は火災保險もありませんでしたから、火事に出遇ふと大損害を來したものでありますが、今日では左樣な心配もなく家賃を拂ふよりは金利を拂ふ方が利益であつて、借りた金は必ず拂はねばならぬと云ふ考よりして何れの時か元金を償却して行くことが出來る、次に家を建築するに付ては、家族關係を基本として割出し、客間など大きな場所を置くことは要しません、主人の客は主人の居間に通し、主婦の客は主婦の居間に通すと云ふ風にして、平生使用せぬ室を客の爲めに明けて置くことは頗る不經濟のことであらうと思ひます、又家を建つるに當つて其家を子に讓る目的で建つるのは愚なことでありまして、親の着た衣服が子供に適合せぬと同じく、子供が成人して家を治むる時代には、其生活程度なり家族關係なりが異つて來るから、自分の建てた家が必ず子の用に立つとは限らぬものであります、人間の生活は五年目毎に一變するものでありますから、成るべく五年目毎に新たなる家を建つる考へを持つが宜いと思ひます、昔は家が唯一の財産で甚だ貴ばれたものでありましたが、今日では大切な財産は他に澤山ありまして、家なぞは格別重きを爲した財産では無くなつたのでありますから、家を建つることを左程大業に思ふ必要はないのであります、故に中流以上の生活になつたらば、前述の方法に依つて家を建つるがよいと思ひます。

母の乳

ドクトル　長井岩雄

私は獨乙に於て主として乳兒上のことを專門に研究しましたが、其結果日本の母の美點を發見致しました、其美點と申すは外でもありません、母が我子に己れの乳を與へると云ふことであります、これは甚だ容易なことでありますが、歐州では此事が行はれて居りません、多くは牛の乳で我が子を育てます、何故に我が子に我が乳が與へられぬかと申しますとこれは第一美貌を保つため、第二は交際繁多なる爲め、第三は自己の娛樂を縱にせん爲めであります、言葉を替へて申せば己れの慾望を充すが爲めに子の爲めの犧牲とならぬのであります、處が日本の婦人はこれに反し、子が生れると其子の爲めに全力を注いで育てることを勤め如何なる業務を差置いても子の爲めに己れの乳を與ふることを辭しませぬ、これが日本の母の特色であるのであります、處が近來此特色が何うした故にか廢れかゝつて參り、子を育てるに牛乳を用ゆる人が多くなりましたのは、甚だ遺憾千萬であります、母の乳ほど子に取つて甘味な且つ滋養なものは無く、假令僅かの分量の外には出ぬ乳でも、多少に拘はらず與へると云ふことが母の義務でもあり、又子の爲めにも幸福な譯なのであります、牛乳で育てたものは成育が惡いのみならず、早く死ぬるのが普通であります、母が病氣等にて乳が呑まされぬ場合には乳母を雇ふか、乳母がなければ牛乳により、牛乳がなければコンデンスミルクによるのが順序であります、併しコンデンスミルクでは殆ど子供は育てられぬと云ふてもよい程であります、然るに今日上流社會にコンテンスミルクを用ゐるものが多いのは大なる間違ひであります、母の乳ほど子に取つて甘美なものはないのでありますから、母が子に乳を與へるこの美風を永く保存しなくては、立派なる第二の國民は作られません。



家事實驗談

何事も輕便主義

農商務省商工課長　松岡辨氏夫人

▲輕便主義　私の處では家事一切成可く手數を省き、輕便に事の出來ます樣にと、これを專一の主義として居ります、それ故に家の構造なども徒らに長い廊下を作るとか、掃除に手數を要するやうな室を澤山作らず、只人々の交通なり、物の持ち運びに便利よく、人手を多く要せずして清潔も保たれ、仕事も充分運ばれるやうにと考へるので御座います、斯る方法を取るに最も影響する點は家の勝手の善惡で御座いますから、家を建築致します際も、此邊には充分注意致しました。

▲手製の洋服　子供の衣服は日本服より洋服の方が運動にも適し、且つ甚だ便利のやうに思ひます、宅では男の子供ばかりで御座いますが、常に洋服のみを用ゐさせて居ります、併し經濟の點を考へますと、一々洋服屋の手にのみ懸けますと、仕立代から時々の修繕いや洗濯などで却て不經濟になりますが、ミシンの使用法又は多少編物でも覺えて居りますと、餘程經濟に行きます、私は子供の洋服は自分で作つて着せて居りますが、二人分が四五圓で出來るのであります、暑中の外は年中用ゐて居ますが、日本服より保ちもよく、最も輕便で御座います。

▲泊客の設備　泊客の爲め毛蒲團を備へて置きます、夜具などは最も清潔でなければなりませんから、來客の都度一人一人に新らしい夜具を用ゐるやうに致しますと、主客共に快く感ずるもので御座います、併しこれは凡ての點に於て容易ならぬことでありますから、輕便な方法に依つて幾分か此事を實行致し度いと思ひます、夫れて私は毛蒲團を白布て包むて置きまして、一度毎に洗濯をなし、其上消毒もするやうな方法にして居ります。

▲自宅て西洋洗濯　宅では月曜を洗濯日と定めて居ります、同時に家内中の下着から夜具の上覆を一週間宛に取換へます此他窓掛、椅子覆等も凡て自宅てのみ洗濯致します、ソーダに石油を混じて釜て煮ますから、消毒も出來、乾いた後はアイロンで皺を延ばすと立派な西洋洗濯で御座います、又子供の洋服とか手織類は棚砂を用ゐて洗濯致します、斯く致すと彼是甚だ手數のやうですが、少しの面倒を厭ふて外へ出すよりは安心でもあり、又快く用ゐらるゝのであります。

▲召使の多寡　日本は古來の習慣として召使の多數なるを以て一種の名譽のやうに心得て居る人もありますが、私は成可く少數の召使て間に合はせると云ふ主義て御座います、私は召使をも家族同樣の心を以て接しますから、餘り多數になりますと家庭の和樂を缺く恐れと、今一つは經濟の點からも家事の組織を輕便にし自分が多少働きましても成可く召使を減ずるやうに勉むるは、主婦としての心掛中必要な條件かと思ひます、夫れ故宅では只今下女が二人て御座います、主人と子供の食物は必ず自分で致すことに定め、又客間の掃除も自分の受持ちとして居ります、前述の如く宅ではなかく仕事が澤山ありますが、二人の女中で家事萬端不都合なく行屆いて居ります、其上元來丈夫てない私も、是非働かねばならぬ仕事を持ちます爲め、却て身體の健康を增し、氣分も常に晴々して居ります。

▲主婦と外出　私は家事を營む傍らよく外出致します、家の粧飾に美的分子を缺きますと殺風景になる如く、家庭が趣味に富んて居りませんと、家族團欒の上に影響を及ぼします、即ち家庭の趣味を養ふは主婦の責任てありますから、其趣味を養ひ、自分の進歩を助くるために外出するのであります。

▲家庭と宗敎　家庭に一つの宗敎がありますと、高尙な道德が保てるやうに思ひます、只今宅では木曜日の夜分に聖書の研究會があります、主人も始めは左程同意を表しませんでしたが、先年獨逸から英國へ參りました時に、英國の社會道德の高いのを見まして、全く根柢が宗敎にあることを感じたとのことて、唯今では共に研究をして居ります、兎に角個人の道德が高まりませんと、決して立派な國家、立派な社會を作ることが出來ません、故に個人の品性を養ふ處の家庭は必ず立派な道德を保持しなければなりませんから、家庭に於ける宗敎は品性を高むる上には勿論てありますが、なほ家族全體の信仰を同じ方面に向ける爲めにも、最も必要なことゝ思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◉理事會　十二月中の理事會例會日取りは左の如し

十二月十三日（第二水曜日）

◉評議員會　十一月中の評議員會例會日取りは左の如し

十一月二十八日（第四水曜日午後二時）

◉有功章御親授　去る十五日閑院宮御殿に於て總裁殿下より有功章御親授を受けたる人々は左の如し

一等有功章　男爵夫人高木富子　村田うた子　仁尾繁子　江崎うた子

二等有功章　石崎鶴子　牧田ます子　關萬代子　濱面民子　青木要子　オスカル、ロイブ

◉總裁殿下支部總會御台臨　今回山梨縣支部第一回總會に御台臨あらせらるゝ事に定まり左の日割にて御發着の御豫定なり御隨行として本會よりは評議員伯爵夫人阿部篤子評議員佐藤猶子事務員香川國平の諸氏及「愛國婦人」記者手島益雄氏御隨行申上ぐる豫定なり

△十一月廿一日　午前九時五十分四谷御發午後三時二十四分甲府御着

△十一月廿二日　甲府市御滯在

△十一月廿三日　山梨支部總會御台臨同地御滯在

△十一月廿四日　午前十一時五分御發車午後四時四十七分四谷御着

◉遊說員　本部遊說員野中やち子氏は目下栃木縣支部遊說中同富樫まき子氏は大阪支部遊說中なり

◉韓國に於ける總會　本會韓國支部の總會を本月十日日本人倶樂部に於て開催せり同地よりの電報報告によれば其狀況左の如し

本日の大會は天氣晴朗伊藤統監長谷川司令官兩閣下其他大官紳士及び韓國內部大臣夫人を始め日韓貴婦人無慮六百名空前の盛會を極めたり席上統監は帝國皇室の慈善事業を詳說し歐州婦人の社會事業に關する實例を引證し本會をして日韓婦人聯合の團體たらしめんことの希望を述べ約一時間に渡り演說せられ會員一同に非常の感動を與へ何れも和氣靄々の中に散會したり（演說筆記次號）

同日岩倉會長の祝詞は左の如し

我愛國婦人會は畏くも我が皇室并に韓國皇室の其主旨を嘉みさせ給ふ所となり優渥なる恩賜金を辱うせる光榮は久子等會員の深く感謝して日夜常に報効を念ふ所なりとす夫憶たる卅七八年の役に當りて我總裁閑院宮妃殿下を始め奉り會員一同は同情の淚を灑ぎ慰藉救護のことに盡瘁し一は出征軍人をして後顧の憂なからしめ一は一般國民をして忠愛尙武の精神を奮起せしむることに微力を効せり今や戰雲こゝに散し東洋平和の氣臨々たるの秋に際し愛國婦人會韓國支部は日韓兩國同胞諸君の贊同援助を得て會務は緒に就き基礎又漸く成らんとし遂に其發會式を擧行せらるゝを聞く久子等欣躍措く能はざる所なり來會せる諸貴顯并に會員の君達よ向今一層同心協力本會事業の擴張に努めらるゝと同時に彼我兩國の姉妹と共に益々親睦融和以て兩國の幸福を增進し邦家の爲め微衷を效すことに努められんことを庶幾ふ

社告

本紙の肖像附錄として掲載致し度に付き新たに就職せられたる支部長始め各職員並に佩有功章者は最近撮影の寫眞御送相成度候尙廢兵の方も追々肖像附錄を作製致し度に付き寫眞幹事部に於て取纏め御送り相成度候也

愛國婦人發行所

◉奥村刀自病症　本部事務員までの通報によれば病症は下腹部に腫瘤を生じ膀胱等を壓迫し兩便の通利に故障を起し時々腹部の攣縮の爲め苦惱を覺ゆる事あるも近頃稍々輕快に赴き漸く愁眉を開きつゝありと。明年は京都にて手術を受くる見込のよし尙病中にて執筆も難き故各縣よりの見舞狀等は可成容赦ありたしとの事申越されたり

各地支部狀況

◉東京支部　本月七日九段階行社に於て幹事會を開き授產場を增設し同時に從業者に對する獎勵法を左の如く定めたり

一、牛ケ淵、本所兩授產場に於ては縫製を主とし赤坂授產場に於ては縫製洗濯の二種とす

一、縫製工賃は熟練と勉強とによりて一日金參拾錢以上を得るに至るべきも新規從業の方々には練習中二十日間は工賃の外に一日金五錢を補給すべし

一、遺族及廢兵并に全家族の方々には獎勵の爲め規定の工料の外一割に付金壹錢五厘の割合を以て其出來數の種類に應じて精算し該金額を每年六回に分ちて賞與すべし

一、全上遺族及癈兵并に全家族にして所在授產場より約二十町以外に居住し定時內の方々には當分の內電車賃として一日金五錢を支給すべし

一、洗濯ものを望まるゝ方には最初一日金拾五錢を給し熟練に隨ひ金貳拾五錢迄を支給すべし

一、赤坂授產場には幼兒保育所の設備之れあるにより幼兒を携帶せらるゝも差支なし

一、自宅に於て縫針等下縫のみを望まるゝ方は左記授產場に就きて照合はされたし

愛國婦人會東京支部牛ケ淵授產場、赤坂授產場、本所授產場

尙同支部內神田區佐柄木町齒科醫齊藤英三郎氏は廢兵並に同家族及戰死準戰死者遺族に慈善施療をなすよし

◉德島支部　麻植郡幹事部總會の決議に依り招魂祭を營む目的を以て慈善市及び慈善音樂會を開催し以て祭典資金を醵集したり今其槪略を陳べんに廿六日午前九時より部會議事堂を演奏場となし演奏者は縣立高等女學校生徒及有志夫人にして十五曲目を演奏せり來會者は四百餘名の盛況なりし當三十日には同堂にて慈善市を開催せり賣品は郡內各小學校生徒の作製品並に有志の寄付品を以て之に充てたるが非常の盛況なりし尙此費用を基礎として營みし同郡の招魂祭は十月三十日執行し一萬人以上の參列あり嚴肅に式を執行し遺族廢兵は特に優待し慰藉を加へり

◉福岡支部　三瀦郡大善寺幹事部に於ては去る三日第一回總會を同村橋本屋に於て開催せり會員二百餘名來會し頗る盛會なりしと云ふ

◉大阪支部　大阪支部會員募集の爲め本部より遊說員富樫まき子氏を招き去月二十六日大阪博物場に於て演說會を開催し後引續き其他市內各所に於て遊說の結果入會者三百餘名に達し盛況のよし

◉青森支部　弘前市朝陽小學校に於て遺族癈兵慰問會を開け依田支部評議員は支部長に代り懇に慰問の辭を陳べ幹事從田まさの子氏の演說あり小山內市長の慰問演說癈兵總代の答辭あり當時同地出張中の島地獸雷師の講話あり夫れより各幹事贊事の周旋の許に茶菓の饗應あり中々の盛會なりし

◉茨城支部　那珂郡幹事部に屬する愛國婦人會員の數は是迄縣下中末等なりしが戰後全會々務擴張の必要を認め池田幹事部長は各町村委員と謀り會員募集をなしたるに各町村共加入者頗る多く總數千三百十三名人口四十二名に對する會員一人の割合となり縣下の首位を占むるに至れり尙ほ今秋幹事部總會を開くの議ありしも都合に依り延期となり來春を以て郡會議場に設開することゝなれり

◉岩手支部　同支部長抑川愛子氏は會務擴張の爲め同支部評議員小林ミキ子宮杜ヨシ子山田主事を隨へ江刺郡及び和賀郡に出張したるよし

◉愛媛支部　松山市幹事部に於ては去る十五日午前九時より公會堂に於て總會を開き終つて宴會を催せしよし

◉鹿兒島支部　去る十一日第一回總會を開催せり總裁殿下より御令旨を給はる詳細は次號に讓る

愛國婦人會々員數並に女子人口比較表（明治三十九年十月末日調）

支部名	特別會員	通常會員	合計	三十六年末女子人口	女子人口百人に付會員比例	贊助員
石川	一、九七八	一九、五八三	二一、五六一	三八五、四七八	五、五九	七九四
山口	八三七	二六、二三九	二七、〇七六	五〇六、九二〇	五、三四	一、〇七[illegible]
山形	八八八	一七、九二四	一八、八一二	四三九、六一八	四、二八	一四三
岡山	一、〇三三	一九、六八六	二〇、七一九	五七七、二七二	三、五九	三六二
福岡	二、五三三	二三、九〇〇	二六、四三三	七七二、七四三	三、四二	九五[illegible]
熊本	二、八二一	一六、六五五	一九、四七六	六一〇、四一一	三、一九	二、三〇二
秋田	八二九	一二、〇〇一	一二、八三〇	四〇三、九四六	三、一八	一、三八四
愛知	一、二〇七	二五、八七〇	二七、〇七七	八六八、五三八	三、一二	六三〇
京都	二、一七一	一三、八七〇	一六、〇四一	五二一、三九五	三、〇八	三七〇
香川	八三〇	九、七一四	一〇、五四四	三四七、八九〇	三、〇三	三五一
富山	八二五	一〇、六八四	一一、五〇九	三八四、九八二	二、九九	六四三
群馬	一、四〇一	一一、九四五	一三、三四六	四五四、一七一	二、九四	二二[illegible]
兵庫	二、〇四一	二三、九六三	二六、〇〇四	八九三、七三四	二、九一	四九四
北海道及函館	二、八一〇	一一、七六五	一四、五七五	五〇七、六三八	二、八七	一、〇六一
長崎	三、二七一	一〇、一六六	一三、四三七	四八九、三九〇	二、七五	五二
青森	一、二九六	七、二四〇	八、五三六	三二二、二一一	二、六五	四六三
宮城	一、四三四	一〇、二七六	一一、七一〇	四四五、〇四七	二、六四	七〇[illegible]
愛媛	三七五	一二、六四四	一三、〇一九	五一一、三九六	二、五五	二九六
大分	七九八	九、五〇四	一〇、三〇二	四三〇、〇二五	二、四〇	四四二
神奈川	一、四九三	一〇、四二八	一一、九二一	四九九、六二三	二、三九	二六二
島根	三一一	八、三四二	八、六五三	三六二、六三五	二、三〇	四〇四
佐賀	八三五	六、五四〇	七、三七五	三二七、六七八	二、二五	一九六
奈良	二八六	五、六七三	五、九五九	二七八、一九一	二、一四	三二一
三重	四〇二	一〇、六六二	一一、〇六四	五二二、〇四三	二、一二	三四六
福井	七一三	六、〇〇六	六、七一九	三二〇、一五四	二、一〇	九八八
高知	二五四	六、四一三	六、六六七	三一八、三四五	二、〇九	六一三
岩手	六六〇	六、八八七	七、五四七	三六九、二七八	二、〇四	一九七
宮崎	二四一	四、七五一	四、九九二	二四七、二五二	二、〇二	四四八
滋賀	四八二	六、五五〇	七、〇三二	三六四、一八八	一、九〇	二、七五七
福島	一、一六四	九、五九一	一〇、七五九	五八二、一五六	一、八五	五四五
東京	七、二九七	一一、九六四	一九、二五一	一、一五七、五一四	一、六五	五〇六
德島	三一七	五、四四二	五、七五九	三五二、六〇八	一、六三	八一
千葉	九八九	九、三一〇	一〇、二九九	六五六、七八二	一、五七	三三六
大阪	二、六八四	一〇、六〇二	一三、二八六	八六三、四〇五	一、五四	一、〇二三
廣島	一、三八八	一〇、一三七	一一、五二五	七四六、六[illegible]五	一、五四	七〇五
茨城	五二九	七、一三八	七、六六七	六〇〇、四一三	一、二八	一五六
山梨	三二五	三、一二四	三、四四九	二七二、一四八	一、二七	三三九
埼玉	三五六	六、六一〇	六、九六六	六二七、五九六	一、一一	三九二
鹿兒島	一、〇四四	五、五五三	六、五九七	五九四、九八五	一、一一	三三一
和歌山	二五八	三、二九七	三、五二五	三五〇、〇六九	一、〇一	三九二
鳥取	一六一	一、八九〇	二、〇[illegible]一	二一七、九四一	〇、九四	三七一
岐阜	六六[illegible]	[illegible]	四、[illegible]五八	[illegible]〇二、六五八	〇、九一	四二四
靜岡	五一〇	四、[illegible]七	五、一[illegible]七	六四〇、[illegible]八	〇、八〇	七〇
新潟	八三三	六、一四一	六、九七四	八九九、〇二一	〇、七八	八三六
長野	五一〇	四、二三五	四、七四五	六七四、五一九	〇、七〇	五六三
沖繩	三二七	一、三三三	一、六六〇	二三九、二二七	〇、六九	九三
栃木	二八四	一、八一九	二、一〇三	四五〇、一二六	〇、四七	一六三
臺灣	一、一九五	四、九二四	六、一一九	一、四〇二、七七一	〇、四四	八、八三四
海外	七三二	二、一二二	二、八五四			二、六七六
計	五六、六二一	四七九、六一五	五三六、二三六	二五、三一三、〇四〇	二、一二	三七、八一四

備考
支部の配列は會員比例數の多きものより順次配列す
北海道及函館の兩支部會員數は合算して掲載せり而して函館支部會員數は特別四百八十九人通常千五百九十一人にして他は北海道支部會員數なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供クラブ

育兒實驗談

幹事　星常子

▲無暗に叱らぬ　子供は發育が盛んでありますから活氣が充滿して居て、日々刻々に進歩して止まる所を知らぬと云ふ特性を持つて居るものでありますから、家庭に於ける遊戯の際などには過失を生じ易いもので、實際終日子供の擧動に注意して居りますと、咎めねばならぬことが十中の八九であります、併し其度每にこれを制止することになりますと子供の活氣を削ぐこととなりますから、私共は禁止的の言葉を全廢しまして、制止する代りに他の仕事とか新らしき遊戯とかを與へて、其禁止すべき事柄の變換を計つて居ります、萬一にもこれに代用する相當なものがない時は、多少の不都合はあつても其儘に放任して置きます、何故斯くなすかと申せば、發動しかけて居る子供の意思を絶對に壓するは精神の發育上に非常な障害を來すことと思ふからであります、併しながら成人の後に至るまで其品性を損ふやうな事柄は、假令些少の事柄でも、嚴重に矯正して居ります。

▲女の子だとて　私は女の子だからと申して、稚い時に特別の教育は施しません成る可く男子の友と交はつて遊ばせるやうに勉めて居ります、其方が反つて體質を壯健にし且つ氣象を活潑ならしむるの効果があると思ひます、餘り幼少の時から女であるから斯うせねばならぬとか、あゝせねばならぬとか、細かい所まで八釜しくしますと、身體の發育を妨げるのみならず、精神上にも害を與へるの恐れがあるかと思ひます、故に先づ十二三歲位までは特別の教育を施さず、只身體を丈夫にし、精神を正うして置くことが最上の策かと思ひます。

▲華族様ぢやない　近來は社會一般が華美と贅澤とに傾いて居りますから、家庭に於ても充分に注意致しませんと、子供が身分不相應な虚榮贅澤の慣習を養ふことになります、殊に此虚榮とか贅澤とか云ふことは、奮發心とは反對の傾向になり、一國の滅亡、一個人の墮落もこゝに起因するのが常であります、併し此贅澤か否やと云ふ問題は、程度問題でありまして、身分を標準として其程度を定めねばなりませぬ、私共は子供が贅澤なことを申します時は、斯樣な品は華族樣の用ゐる物で、家では華族樣でないから左樣な物は買へぬから、若し欲しいと思ふなら成人の後自分の力で何んでも買ふやうに勉むるが宜いと申し聞かせます。

▲自分の事は自分で　自分のことは自分でなすと云ふ慣習を養はせて居ります、殊に金錢に就ても深く注意せしめ、親讓りの財產を濡手で粟を掴むやうに、取れるものと考へぬやうに心懸けさせ、子供が特別に何か希望することがあります場合には、相當な仕事をなさしめ、其報酬として與へるやうに行ふて居ります、斯樣なことは今の日本社會の家庭では多く行はれて居りませんが、子供に依賴心を起させぬやう教育することは、親として子に對する親切であると思ひます。

秋の蝶

三島霜川

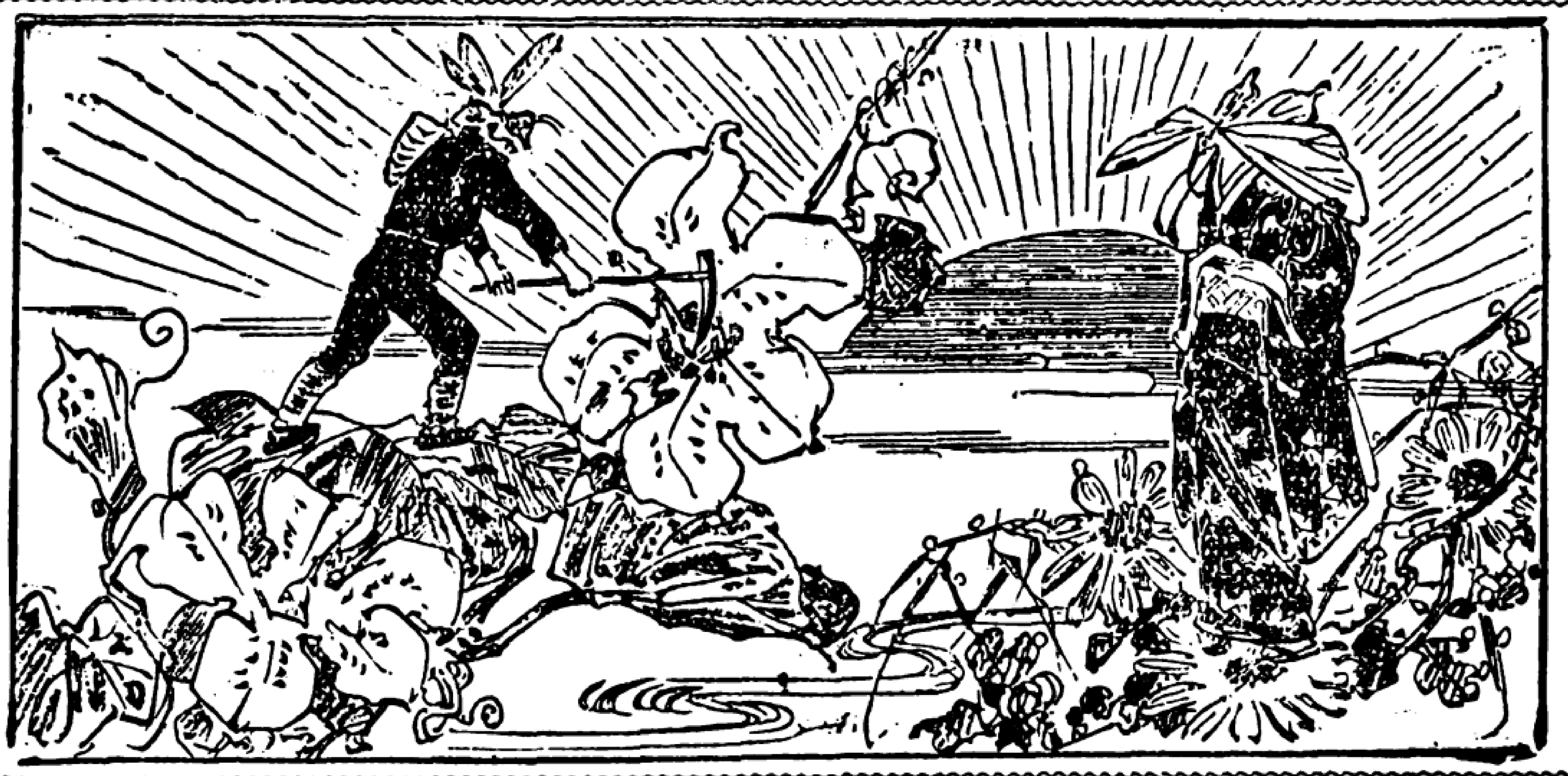
清らかな小川の岸に咲いてゐた菊の花から、露がはらりと零れた。其菊の葉蔭に白い、小さな蝶が安らかに眠ってゐたが、露がひやり、顔に落ちたので、驚いて眼を覺ますと、夜は既うカラッと、明放れてゐた。

「まア大變に寢坊をした」。と大きな口を開けて、危ふく呶をしやうとして、ふッと氣が附く。て欠伸を生噛にしながら、尚だ羽翼も動かさずに凝如として居た。そこらには、早起の蜂が、低聲で唸りながら、もう仕事に取懸ってゐる。

「眞個に那の方は勤勉家だ！最も妾と違ッて事務家なんだけど、善くまア那麼に根氣が續くもンだ。」

此樣ことを考へながら、徐々頭を擡げて眼を明けて見る……

「おゝ！好いお天氣だ。」と思ッてゐる暇も無かッた。旭がキラ／＼と射込むで



來る。眼映しいので、よく眼を瞑ッて、今日は何の方面に迷はうかと考へてゐた。其下て少川の流れが、小石か何かに偃かれて、金鈴でも鳴らすやうな音を立てゝゐた。水は蒼空のやうに澄切ッてゐた。秋の蝶は此自然の調に耳を傾げながら、恰て母親に背中を叩かれてゐる赤子と言ふ格で――大きな目を開けてゐながら何か見詰めるやうに、また何か聞澄ますやうに、うと／＼としてゐる――恰度其格で、耐力も無くなッてゐた……と、また露が零ぼれて、羽翼に落ちた。蝶はスッカリ眼が覺めて了ッた。

眼が覺めると、直ぐとひら／＼と舞上ッて、其れからまた、ひら／＼と舞ひ下りて來て、今度は水引草に止まッて、先づ露を吸ッて

「何處へ行かう」と考へながら、凝如としてゐた。ふとした拍子に流れを見ると、薄むらさきの野菊の花が、鮮やかに水面に映ッてゐる……

「おや！」

汚たない見苦しい蝶が、菊に棲まッてゐると思ッて、四下を眴はしたけれど、自分の外に蝶の影も見えぬ。能く見ると自分の影が映ッてゐるので有ッた。

「まア嫌だ！妾の影だわ。だけど奈何したと謂うんだらう、何うして此麼に汚たない姿になッたんだらう、最う老けて了ッたのか知ら？」と思ふと、何だか、悲しくなッて來て、つい、溜息をするので有ッた。見れば見る程愛想の盡きる姿で有る。眼はと謂へば濕るんで、髪はと謂へばそそけて、唸は膨れぼッたくなッてゐるし、唇は艶を失ッてゐるし、如之、白粉も斑に剝げて、顔は蒼褪めて、血の氣を失ッて居る。

「何と謂ふ亂次の無い風姿だらう？」此麼姿て誰れに、顔が合はされやう。此れぢや幾ら舞ッて見せたッて、誰も見惚れて呉れやしないわ……其どころか、誰も鳥渡でも見て呉れやしない。」

何故這麼に、衰へて了ッたのであらうと思ッて、蝶は熟々と身の不運を儚むで居た。

「昨日までは豈夫、這麼に見苦しくも無かッたんだけど、眞個に嫌な姿になッて了ッた。」

朝ッぱらから嚮込むで了ッて、獨り懊惱くして居た。眼には涙が濕るんでゐる。

「既う何處へも行くまい！此樣お婆さんになッてから舞ても有りますまひ。他に笑はれない間に引ッ込むのが花だ、もう／＼此處を動かずに誰れにもお目に懸りますまい、其方が氣が利いてゐる。だけど這麼好い天氣に、口惜しいわ！引ッ込むでゐるのは口惜しいわ！乾度皆さんは綺麗になッてお出かけになッたに違ひない、けれど……今頃は最う、夢中で舞ッてゐらッしやるに違ひないけど、妾ばかりは、妾ばかりは何だッて此樣に老込むで了ッたんだらう。未だ老込むやうな年でも無い筈だのに、まア何うしたのだらう！餘まり苦勞をしたから、其れて、此樣に窶れたのか知ら？」

頻りに愚痴を繰返へしてゐる。蝶は何故、眼の覺めた時の元氣に似ず此樣愚痴を繰返してゐるのでございませう。まア、皆さん、考へて御覽遊ばせ。蝶は永い春を徒に舞ッて暮し、暑い夏を寢て暮らして、時といふものゝ過ぎ行くのを知らなかッたのでございます。そして秋ともなッて、自分の體の衰えたことに氣が付いて驚いてゐるのでございました。

孤蟹

森田竹子

深山がくれの谷川の　小石のかげに孤蟹
出ては消ゆる月を愛て　入りては安く眠りつゝ
長閑に世をば送れども　友なきを喞ちけり
或時此處に世馴れたる　數多の蟹の集ひ來て
友の中垣むすびてと　言葉懇しく賴みけり
兼て侘たる身にしあれば　孤蟹は嬉しく誓ひけり
初の程はかにかくと　いとも樂しく遊びしが
軈て秋風身にたてば　絶えて音なう蟹もなし
千代も八千代も睦まじき　友の交らひ變らじと
誓ひし言葉いまいづこ　賢き蟹はかゝるかと
世の交らひの轉しくして　難きを蟹は悟りけり
時しもかにの又一箇　一になりてと尋ね來ぬ
されども前に懲りし孤蟹　世の交らひいと難し
許し給へと打詫びて　小石の陰に入りにける
殘りし蟹は憎さげに　獨ぶりする面にくき
心ねじけし彼をみよ　其の行ひも横にゆく
偖も笑止と嘲りぬ　吾が邪はかへりみず

愛國文藝

暮秋日記

松原至文

▲第一日

空よく晴れたり、庭前の柿の枝を透してすかし見れば、一むらの雲の翳せるだになし。

オヽ、澄める、冴えたる秋の空よ、乾々淨々、點塵だにもなき汝が晶潔をして、希くはわが心たらしめよ。

夜、わが弟泣くと覺えて、眼をさませば、枕頭の愛讀書の鼠に嚙まるゝなり。

▲第二日

新橋にて、二人の國より來るを迎へ、一人の國に歸るを送る。今日歸るものも曾ては今日來れるものゝ如き心地して此處に來れるなり、今日來れるものも又何の時にか今日歸るものゝ如き狀態して此處より歸らざるべきを保すべけんや。輪轉無常、品川の灣頭に立ち盡して人の世の秋を泣く。

山口理勢子

▲第三日

今日も亦晴る、雜司ケ谷の林を散步す、彼處此處、なほ殘れる柿の、枝頭に星の如く赤く照れるを見る。

夕、茜珊瑚の雲、細長く夕名殘の空に引いて、武藏野の原頭を壓し、月出でゝ西の空、色さむれば、白銀の霧、大海原の如く、田野に粘するを見る。

虫の聲、素足の風と共に冷かなるを聞きつゝ、ふけてはまさる夜寒の露を身にしめて、家にかへる。

▲第四日

此頃の夢の多きよ、昨夜も亦おそろしき夢を見たり。さめて頭をなづれば、汗しとゞ也。

椽に座して、庭石の上に堆かき落葉の、昨朝にくらべて多きを見て、昨夕の、秋の風、秋の聲の、はげしかりしをそゞろにおもふ。小春の日、袷の背に暖かなり、菊一輪咲く。

▲第五日

昨夜遲くまで『愛國婦人』の原稿を書く。腦を害したる身の、新らしく稿を起さむ事の、心にも會せざれば人にも益なきを思ふて、昨夜までの日記の節々を淨書す。

今朝はその稿をつがんとす。二十餘年の秋をうらぶれて、みだれたるわが筆の痕かな。さはれ拙なくともわが胎に暖めたる愛見なり、目にふるべき人々の前に侍して、身に相應ふべき責を果せと、さそくに筆を收めて封じ了る。

今迄仕へ呉れし此の筆、此紙と思へば流石に別の惜まれて、時雨るゝ面に見つむれば、胸亂れて頭熱す、やをら立ちて雨戸をくれば夜は寂として聲なく、折々聞ゆる筬の音に、八日の弦月影淡し。

▲選者曰　是丈の文書ける人の文藻枯れ果てたりとは云はさじ

短文

▲錦の袖（一等）　背森　吉田安子

夕陽の光を浴びて一層かゞやく山また山の紅葉、嶺に聳立つ白雲までがほんのりと、紅いやうな氣がする、其所に谿川あり、碧水流るゝこと急にして散り浮く木の葉の幾萬片、龍田姫の錦の袖を千斷つて流すかとばかり、其の美しい流れの中を下つて行く筏舟一艘、詩の神樣はあの上に乘つて御座る。

▲選者曰　其文よりも其想の高きを賞す

▲お天氣（二等）　福岡　戸川益子

二階の椽頭に立つて見渡すと、雪の如き蕎麥の花、綠の衣着けた大根畑、蕪菜の畦が美事に野面を飾つて、鎌入れの濟むだ稻の切株は懸然と、間近の榛の木の梢では、百舌鳥が鋭い聲を張上げて軌々と啼いて居る、今日は好いお天氣——。

▲選者曰　お手際感服仕る

▲筬の音（三等）　埼玉　森田竹子

木枯すさぶ冬野に淋しう靡き伏す芒のごと我文藻かれ果て、腦中遂にうつろとなりぬ、いで紙も筆も燒き捨てんと思へど、

▲二時十分　東京　中隈富士子

庭には黄菊、菊白、紫背など我は顔に咲き匂ふて居る、それに戯むれて居る美しき蝶や蜂は、私達も共に枯れ行く運命は、此花と同じことだと云ふやうに兎角翩々と哀れに見ゆるに引きかえて、蔦や、楓や、柿や、櫻や、名も無き草迄が紅深ふ色づいて居る、と見ると向ふの柿の梢にかしましい百舌鳥の聲、椽側の障子には虹が飛んで來てトンと當つた、が其儘落ちた、小春日の、今が恰度二時十分。

▲田園生活　福岡　松村壽賀子

九月の中に種子をまいた色々の野菜が、大分大きくなつた、殊に可愛らしきは、眞白さ玉を並べた樣な蕪、里芋もよくてきて、芋が澤山ついてゐる、元より少しばかりの空地なれども、己が手一つにてなせし物が、可成りよくてきてゐるのを見ると、誠に樂みなものである、鍬もつ事さへ知らざりし身の、おぼろげながら、かゝる事のできるやうに成つたのも、田舍住居の幸ならんか。

▲花の香　大阪　富永才子

かりのはがきの御たより、いと嬉しう拜しまゐらせぬ、匂やかなる君がみ文に秋の野山をさながらに見る心地いたされて候、幸ひ母のゆるしも得候へば、明日はとくより宿を立ちいでゝ、野路の朝露かわかぬほどに、御門おとなひまゐらすべく候、いかで其折には、御文机にあまる花の香を我が秋にも分ち給へかし、今よりねぎまゐらすになんかしこ。（都より）

▲しこ草　東京　岡田春子

ふりはへ給へる御文、はつ雁のそれにもましていと嬉しうなん、言葉の花のさき匂へる君がみたちたどさへ懷かしきを、松虫も人まち顔に、野べのすゝきもさし招くと承りてはゆかしさ堪へがたけれど、色も香もなきしこ草の、淸きみ庭をけがさん事の心苦しくてえもゆきあへぬを、なめげとなおぼし給ひそ。（富永才子の君にかへし）

▲秋の夜　京都　花輪余志野

いとまなき身は樂しかるべき野外のそゝろありきも意にまかせず、むなしく暮す夕まぐれ「昨日よりけふまた秋の色そひぬ、間近く見ゆるひんかしの山」などつぶやきて窓の戸をたて、先向ひたるともし火の下に、せめての心やりにと、繪筆とりいておぼつかなくもゑかきたる菊の花、わざ拙ければ見るはゑもあられど、床しき野邊の忍ばれて、そゝろなつかしく捨てかたき心地するもわれながらをかし。

▲心の錦　東京　鈴木菊子

母君がみ墓詣での歸るは、妹伴ひて、五二共進會見んにものす、先づ京都の部を見る、美しく飾られたる織物の數々は、未だ見ぬ嵐山の花、龍田の錦もかくやと眼眩めく心地す、ふと傍を見れば、若き人の七十計なる嫗の手を取り勞はりつゝ是は何、彼はかくなど、懇に說きては示す、娘か嫁か、此君が美しき心には、此館せき迄列ねられたる綾も錦もいかで及ばんと思へば、床しさに後姿のみまもられつ。

▲秋怨　埼玉　水野淑子

見るにつけ聞くにつけ、悲しさのみ充ち〳〵て、千々に碎くる我心、是れも病の爲めにかあらむ、今を盛の菊の花あはれ今年が見納めか、紅葉美しき櫻の梢に花の白雲かゝる頃まで、我齡保つべきやなど打ちみやる庭の面に、白き胡蝶の風に追はれて飛び交ふ姿の、何とはなしに哀れ覺えつ。

▲學生　愛知　石川類子

世の人は植木を樂しみはた小鳥を養ふ抔あれど、わらはは學生を養ふ程樂敷はあらじ、夏冬の休みには遠近より寄つどひて、中學、醫學、農林、商業、おのもの〳〵面白き物語す、小學に通ひける三たりの乙女らは、朝夕炊事の手傳ひも忠實にしけるは、學びの道に志厚きも學資に澀き家の子らなれば年久しう養ふ、妾は身に積る老も忘れ、學生らの學びの道目出度終らむ事耳を樂しみ過しつるになむ。

▲淚、淚　愛知　磯貝くら子

わらはは西も東も分らざりし時、父君に別れ、十歲の頃より此御館に仕へ侍るに、不束者なるもいとねんごろに召仕ひ給ひ、日々事しげき中より學び舍に通はせ戴くさへあるを、愛國婦人會に入會させ給ひし事ども聞き給ひて、父君世に居まさば共に嬉しう語り合ふべからんにと淚にくれ給ふ母君を見るわらはは、嬉しさと悲しさに胸のはり裂く思ひこそすれ。

▲選者曰　以上二文を讀みて吾は淚にむせびぬ

▲酉の市　東京　白田はつ子

昨日船積より上げられし唐芋、今朝入來る俵を加へて數も百にあまりぬ、買ふ人いと景氣よし、されどきわものなればあすの酉の市の雨にてあらんにはいかばかり望みや失ふならんなど思へば、いとゞ空のみ打あふがれてなん。

▲麴の花　群馬　伏島たき子

味噌たきも、香の物も漬けをへ候て、いさゝか暇を得候へば、一日御邪魔にと存じ居り候折しも、紅葉見に來よとの御玉章、實に嬉しう拜見いたし候、さ候はゞ、唐錦織りなしたまへる御館の葉のあやをも承りかたく〳〵、後ともいはず夕方より御伺ひ申すべく候、そのせつ此方よりはきこへあぐべきこともなく候へば、ことのはならぬ、麴の花のつけ加減なりともと存じ候、かしこ。

新體詩

▲秋泊（一等）　背森　茂呂その子

漁り灯の影寒むく
灘の小波聲かすか
苫をあらみの楫枕
客の眠りの閑さよ
蓬窓あけて眺むれば
東雲ちかき天の色
十里の灣は霧立て
殘んの月に芦白し

▲豐年賦　東京　勝山千代子

垂穗饒けき秋の田に
神の御子なる壯俊が
豐年祝ふ賦を唱へ
月桂冠を編てそと捧げ
左へ右へうら振りて
刈れども盡きぬ國幸や
黄金と實りし八束穗を
腕展べて鎌取りて
一ッ刈りては瓔珞の
二ッ刈りては重やかに
希望の雲を差招く
瑞穗の秋の惠なる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新思潮之

新公論

毎月一日發行

十一月號目次

▲日本百年後の宗教　谷本富　小崎弘道　綱島梁川　廣井辰太郎　桑木嚴翼　內ヶ崎作三郎

▲演劇と演藝の改良　坪內逍遙　島文二郎　田口掬汀　井原青々園　正宗白鳥　原霞外

▲老年訓……佐治實然
▲日米初對面の記……ペルリ
▲余の經歷談……江原素六
▲角田眞平と高梨哲四郎……暮村隱士
▲稻づま……青柳有美
▲一言哲學……金子喜一
▲最新思潮……四十餘篇

定價　▲一冊金拾五錢　▲六冊金八拾五錢　▲十二冊金壹圓六拾錢　▲無遞送料

發行所　東京市本郷區東片町百十一番地　新公論社

東洋一　製造大販賣　卸小賣

夜具・蒲團類　綿ざぶとん

◎上等下等澤山あり御好次第山の如し
◎街鐵も外堀線も小川町東明館前下車を乞

東京神田區表神保町

諸官省御用　矢田商店

電話本局二千十八　市内無賃配達

◎綿質保險附◎確實大安賣◎正札引なし

五二共進會樂器出品

有功 銀牌受領

階上東京の部に斯道の逸品種々陳列仕り置き候間御一覽の程奉希上候

本店東京神田區かじ町十二

樂器商　菊屋總本店

電話本局二一四四九番

凱旋紀念五二共進會に於て

有功金牌受領

新柄澤山取揃へ申候間御用命奉希上候

半ゑりハ神田赤の暖簾

神田表神保町壹番地　電話本局二八五三

出店新橋博品館階上

本店 神田表神保町一番地 電話本局二八五三番　出店 新橋博品館階上

帝都唯一受賞袴　小町印學生袴

日本橋區彌生町　卸部　永井本店（電話浪花一八四一番）

神田區南神保町　小賣部　永井支店

ムスク香水

（大瓶壹圓◎中瓶六拾五錢◎小瓶二十五錢）

○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり

東京日本橋區本石町四丁目　ホーサン石鹸本舖

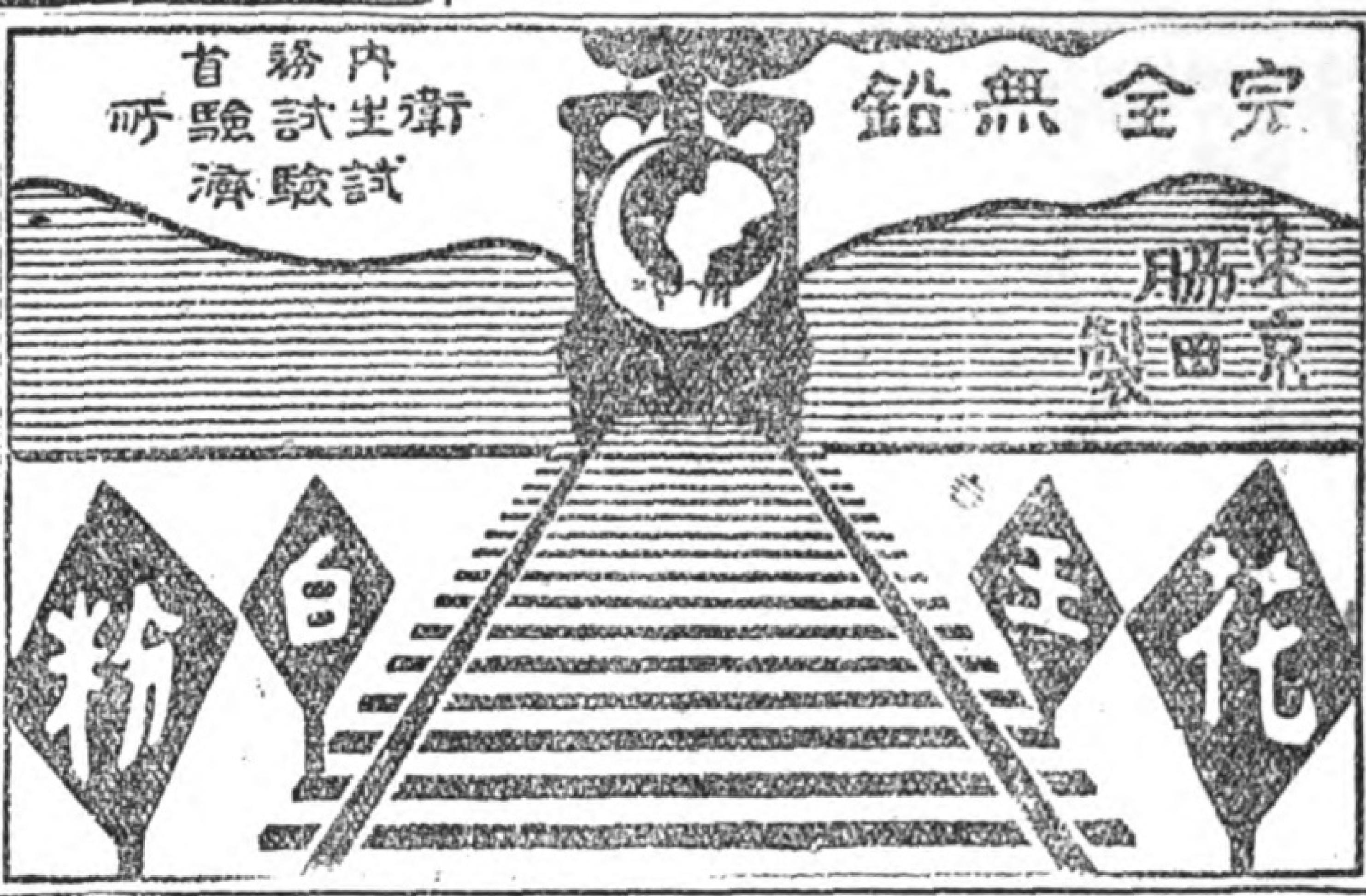
本舖　松澤常吉（電話本局百四拾五番）

美術貴金屬袋物商

東京日本橋區人形町通り

澤田治助

長電話浪花二五六九番



自活の道を求めらるゝ婦人方に告ぐ

本院の卒業生を家庭教師、學校教師として雇聘したしとの申込を受けたる向多けれども、本院創業已來日尚淺く、現在の卒業生のみにては四方の望みに應じ難し、此際當院へ入學せられ、來年四五月頃に至り本院の高等科を卒業せらるべき方にして、自活の道を求めらるゝ方は、本院は之を家庭教師に採用し、或は本人の望みに依り自宅に職を授くるの勞を採るべし、仍て左に當院在學の費用を記すべし

普通科　三ヶ月　月謝壹圓ヅヽ
高等科　三ヶ月　月謝壹圓五十錢宛
入學料　壹圓　材料自辨

當院は今回左圖の如き校舍を新築したるに付き尙百名斗りの入學を許可し得べし、寄宿舍はあれども既に滿員にして當分入舍を許し難し、地方の人は其用意して上京せられたし

目下家庭及學校教師として申込を受けたるもの凡そ五十口、來年四五月頃迄には凡そ百五十口に達すべし

規則書は進呈すべし郵稅封入申込みあれ

東京市麴町區有樂町一丁目五番地

シンガーミシン裁縫女學院

女學通信教授

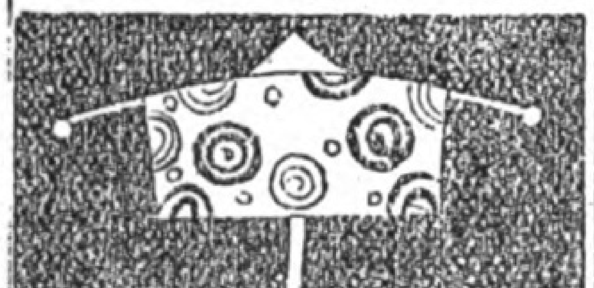
◎本會は女子教育の普及發達を圖らんが爲に諸名家の講義に係る女子必須の諸學科を網羅せる女學の講義錄を發行して會員に配布す◎小學より進みて高等女學校に入學し難き事情ある女子達は本會に入會して家庭に居ながら諸學科を講習し以て女の道を辨へ給へ◎本會の基礎確實にして講義錄の有益多趣なることは夙に世の定評あり昨年冬本會創立十週年に當り畏くも皇后宮より御歌特賜の恩命を蒙れり◎當月より第七回目の前期講習會を開く此際とく入會申込あれ◎詳細の會則希望者はハガキ又は電話にて請求あれ直に送呈すべし

十一月二十一日初卷發行

東京市麴町區下二番町卅七　大日本女學會　電話番町一三三〇

新學期を開き會員を募集す

○本會創立以來十二年會員四萬人に達す○月謝金廿五錢入會金不要



東京買物用達合名會社

東京市神田區千代田町（電話本局八九四）

當會社は東京に於て賣れる物品は如何なる物品にても買入に盡力す

當會社へ買入方申込者は品名分量品質色合使用向代金を示されたし

當會社は運送費荷造費の實費の外手數料として代價百分の二を受く

當會社は買入代金十圓以上の物品は代金引換小包他は前金申受とす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

紅葉　大口鯛二氏選

天

山風にはれ行く霧のたえまより見ゆる紅葉に朝日さすなり　三重　諸戸常子

▲評云　深く實境に思ひ入らずしては、よみ得がたき歌なり。

地

夕日さす磯山紅葉風たちてちしほの波ぞ巖に碎くる　青森　茂呂その子

▲評云　三句原作「亂れ合ひて」とありしかど、風なくては其の景趣うかびがたき心地せらる、よりて改めつ。

人

鉢植の實生の楓もみちしていと愛らしく見ゆる色かな　京都　渡邊時子

▲評云　實生の楓にしていと愛らしきさまあるべし、よりて二句を改めつ。

○、佳調

閼伽棚に霜もしみれて山寺の夕さびしく散る紅葉かな　岡山　武田須磨子

落ちかゝる夕日をうけて遠山の高嶺の紅葉しゆはかりなり　東京　川村孝子

あやにくの時雨といひし空はれて夕日にあかき峯の紅葉　長野　臼田いち子

おきわたす霜は朝日にとけつらんぬれいろふかし峰の紅葉　大阪　富赤オ子

いつれをか折りて歸らんこきもよし薄きもあはれ峯のもみちは　東京　土師土根子

はてしなき磯名の湖をいろとりて影うつくしき峰の紅葉　群馬　峰さく子

霧くこゝ峯も麓も紅葉して松のみとりのはゆる頃かな　神戸　宇野しな子

杣川の筏の上のもみちはゝ嵐のたちし錦なるらん　秋田　鋼矢はる子

▲評云　おなじ錦のうちにもゝやゝ目に立つあやあるべし

松はかりうつしゝ水も秋更けて萬の紅葉のかけを添へつゝ　岡山　江田逍子

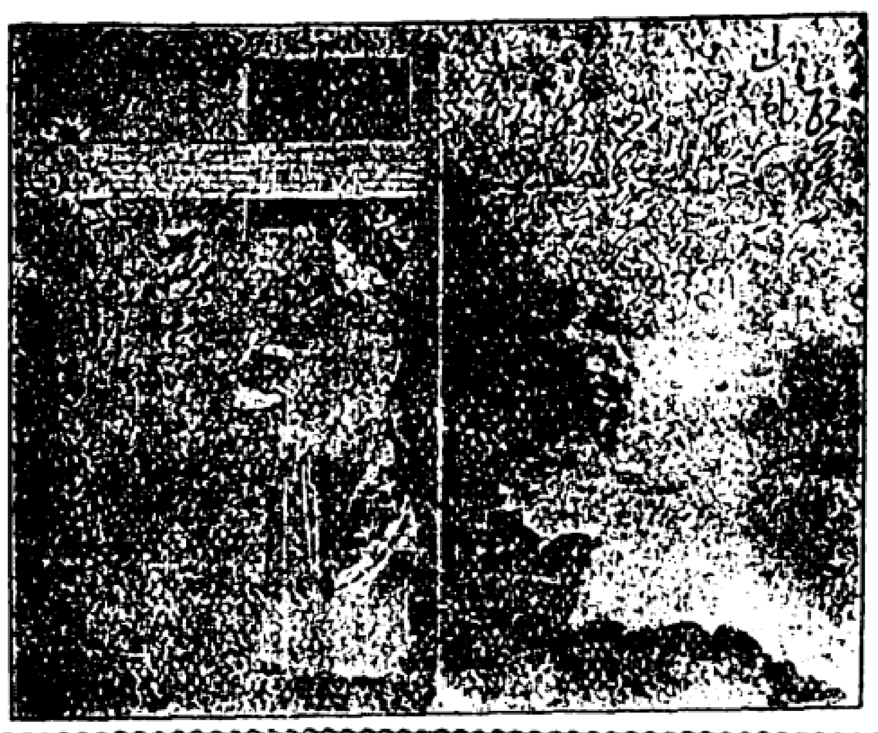
心なき人も手折りてかさすらん夕日ににほふ峯のもみち葉　青森　田島愛子

くもまもる夕日のかけの照りそひてまはゆく匂ふ峯のもみち葉　福岡　松村蔣賀子

夜の雨に露落ちやまぬ紅葉に朝日匂ひてうるはしき哉　岡山　横川朋子

村時雨はれし朝ぞ心地よき紅葉かりけん友をさそひて　群馬　伏見たき子

谷川の流に秋の色見えて峯のもみちに夕日しくるゝ　山口　末田良節子



木枯のちらすそをしき楓紅葉けふはひとしほ色のまさるに　東京　吉岡かめ子

紅葉狩なれぬ深山に日はおちてかへさまとひし秋の夕くれ　長野　植原千代子

やまさとの小春ひよりのひとゝきは花にもまさる峯のもみちは　群馬　木暮千代子

秋山の峯より峯のもみち葉はたえす時雨に色や染らん　京都　岩迄駒子

おしなへて紅葉の色や深からん空まてあかき秋の夕暮　靜岡　大高ふみ子

山姫のそめ出にけるもみち葉はてらす夕日にはえまさりけり　東京　麻生敬子

繪筆にもおよはさりけり朝霧のたえまに匂ふ峯のもみち葉　大阪　[illegible]る川芳子

村時雨ふる度毎に色そひ花にもまさる庭のもみち葉　三重　小嶋駒子

きのふより今日は一しほ山の端に匂ふ紅葉のゆかしかりけり　橫濱　鈴木松子

霧の帯とけし方よりあらはれて山は紅葉の裳裾見せつゝ　新潟　青木栄子

▲評云　着想洒落なれど品位高尚ならぬを遺憾とす

夕つく日うつろふあたり色まして峯のもみち葉今盛りなり　京都　金澤枚子

斯くはかり濃き紅の山ゝは霜や染めにし露やそめにし　新潟　町田きくえ

みやつこかみかもて歸る夕間暮左手のみけに散る紅葉かな　三重　四山ひさゑ

都には時雨ふりけり二荒の紅葉はいかに色つきぬらん　東京　三宅ひさ子

一枝をつとにおくらん初紅葉都とのたまふ都の人に　函館　安藤喜栄子

心なき賤の男までも此頃はふりかへし見る峯のもみち葉　岩手　山崎よれ子

さけは散る花の色香にくらへてもいはん方なきもみち葉の色　仙臺　渡邊道子

數おほき庭の紅葉のいろつきて夕日あやなす山の古寺　大阪　佐野眞子

ふり出し雨にひとしほ色そひてさらにもあかす向ふもみち葉　京都　渡邊豊子

村雨に秋葉の山の紅葉はぬれていよ濃く色まさりけり　新潟　阿部秀子

暮れのすき秋の日影なくれなゐの紅葉にのこす峯の夕はえ　三重　大藏し子

しら壁の長者か構の夕紅葉おたりきゆく照り渡るかな　東京　空東信子

遠方の高根の紅葉しくれきて錦流るゝ秋の山河　岡山　貝原やす子

古巣の紅葉いかにとしのはれて蒋見にゆくもゝのうかりけり　埼玉　水野淑子

一しくれはれたる峯の夕日かけ燃え見ゆるは紅葉なりけり　北海道　西久子

おこせたる人の眞心見えてかつ鉢の楓は色つきにけり　愛知　市樫鶉子

照りに照り燃えにもえたる夕映の色うつくしき峯の紅葉　岡山　寺松敢子

春やまの花にまさりて見ゆるかなそめ盡したる木ゝのもみち葉　東京　戸塚鏡子

村しくれはやくもはれて夕日さす高根の紅葉うるはしきかな　東京　龜岡登子

なにならぬ木ゝの梢ももみちせりあらし高雄の秋やいかなる　東京　長靈鋭子

時雨して色ます峯の紅葉に夕日のかけのさしそはりつゝ　京都　磯谷蓉子

村雨のふるたひことに秋ふかき山路の紅葉色まさりけり　京都　清水今子

めくまれし紅葉なみても高雄とは[illegible]しそうらみな　埼玉　森田竹子

秋颪の身にしみけるそ其日より楢のもみち色まさりけり　靜岡　萩原さだ子

[illegible]

鐘つきて物從かくたる若僧のやつれし面に紅葉散るなり　京都　堀ちぐさ

▲評云　結句の原作「散りけり」とありき、さては僧の顏に紅葉が附着してあるやうにきこゆ

村時雨ふりにしあとは一しほに色こそまされ庭のもみち葉　東京　岡田木々子

柿の實の見わけもつかすなるまでに梢は色つきにけり　東京　中厩富士子

露霜のふる度毎に濃くこそもみちの錦色まさりけり　東京　渡邊仙子

繪葉書贈呈

本誌が毎號募集せる和歌、俳句の繪葉書五百餘枚は、嚴に抽籤法に依りて閨好の諸姉に配與したるが、投稿者日に増加して、一度空虚となりし繪葉書箱、今やまた盈るゝばかりの數を藏するに至り、金色、銀色、紅、紫、青、緑、燦然として眼を眩ぜんとす、而もこのうちに高雅の諸姉が吟詠、美はしき水莖の跡の匂ふあり、吾等はこれを吾等のみにて賞翫することの、餘りに幸多きに過ぐるを思ひ、こゝに案を立て、次號より左の方法の下に是れを諸姉に頒呈することゝなせり。

和歌
- 天位當選者に　二拾枚
- 地位當選者に　拾五枚
- 人位當選者に　拾枚

俳句
- 天位當選者に　拾五枚
- 地位當選者に　拾枚
- 人位當選者に　五枚

短文
- 一等當選者に　拾五枚
- 二等當選者に　拾枚
- 三等當選者に　五枚

新體詩
- 一等當選者に　拾五枚
- 二等當選者に　拾枚
- 三等當選者に　五枚

[illegible]

入日かけしはしとめて見まほしき紅葉の峯に登りつくまで　東京　上野芳子

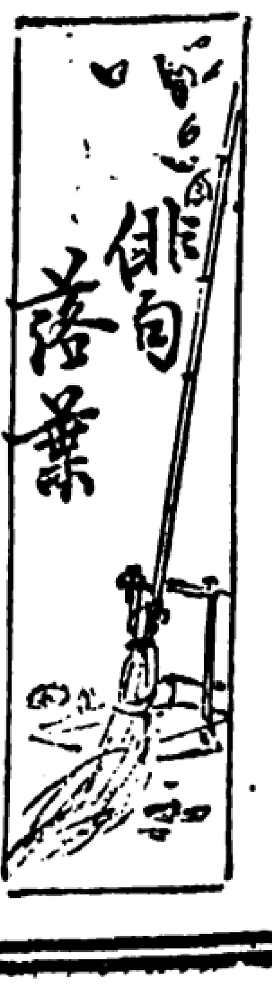
[illegible]

▲懸賞歌數　五百七十二首

一、和歌、俳句、短文、新體詩投稿の諸姉は必ず其の投稿葉書に御住所を明記せられたし

一、投稿諸姉の小照を掲げたく候へば、何卒最近の御撮影御送附乞ふ

一、毎度申すことながら締切期日以後に投稿さるゝ方あるは殘念なり、何卒期日を堅く御守り下されたし



俳句　落葉

天　落葉かく子にふりかゝる落葉哉　埼玉　森田竹子

地　落葉して小窓に富士を眺めけり　東京　山口理勢子

人　人の身の上にもかゝる落葉哉　靜岡　萩原さだ子

十客

友の家見へて嬉しき落葉哉　埼玉　水野浪子

不意に來る客に又掃く落葉哉　三重　莊司琴子

[illegible]落葉哉　東京　大森富士子

[illegible]落葉哉　東京　中丸すゝ子

[illegible]落葉哉　長崎　内藤よし子

[illegible]落葉哉　京都　古川まれ子

[illegible]落葉哉　三重　南部稲子

[illegible]山路哉　山形　阿部さゐ子

[illegible]落葉哉　京都　堀部ちぐさ

深山路や落葉の底に水の音　德島　石津はき子

○

はらくと烏帽子にかゝる落葉哉　三重　山口せい子

落葉かく僧に尋ねん友の墓　京都　八田麗子

先院の陵はいつくそ落葉道　青森　茂呂その子

庭男はけともはけとも落葉哉　京都　谷澤怜子

晝ふて雨の落葉や星月夜　三重　南部操子

落葉して楢は淋し秋の暮れ　京都　清水今子

汲あけし釣瓶の中の落葉哉　東京　龜井純子

無雑作に掃きよせらるゝ落葉哉　京都　磯谷蓉子

あさ清めなし果てぬ間に落葉哉　埼玉　加藤みよ子

朝風呂を寺に貰ひし落葉哉　東京　中山正子

松の庭散るは殘照の落葉哉　愛知　市橋繁子

一と葉二葉落ちはりたる楢葉哉　呉　遠藤ため子

山寺のあか井のほとり落葉哉　群馬　伏島たき子

吹からの鳥の脊流散る落葉哉　東京　秋元小菊

同し落な積んてるゝ落葉哉　德島　沼田うめ子

山門の鐘崩れたる落葉哉　鳥取　橋浦艶家子

落葉して春は戸口に追りけり　東京　鹿坂たき子

姫松の夢の調へは落葉哉　三重　根來くに子

自から篠きしたはし落葉時　京都　渡邊米子

はきつゝも又上見る落葉哉　東京　三宅久子

落葉して寂寞したり一小村　橫濱　木村しろ子

花寺の眺めの庭の落葉時　熊本　齋藤さき子

木のもとに散り積りたる落葉哉　青森　田島正子

愛られし果をは今日の落葉哉　長野　植原千代子

野分したあしたの庭の落葉哉　大阪　十合波榮子

踏む足に先立つて來る落葉哉　東京　伊矢野孝子

吹風を待てももろき落葉哉　長崎　三隅谷子

落葉して錦布きけり庭の面　三重　小島駒子

第四十一回作歌募集
- 題　除夜
- 選者　大口鯛二氏
- 規定　一人一首繪葉書に認むる事
- 優等の作は十二月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第卅四回短文募集
- 題　隨意
- 選者　編輯局同人
- 規定　百八十字以下用紙は葉書
- 優等の作は十二月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第廿一回俳句募集
- 題　大晦日
- 選者　編輯局同人
- 規定　一人一句繪葉書に認むる事
- 優等の句は十二月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第十四回新體詩募集
- 題　隨意
- 選者　編輯局同人
- 規定　成るべく短きものを用紙は葉書
- 優等の作は十二月二十日發行の本紙上にて披露すべし

締切十二月五日限り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉愛國彰義會　家を忘れ、身を忘れ、奮勇國難に殉するの忠靈は、聖君の御稜威と共に、永く國史に垂れて、芳馨を千秋に傳ふ、然れとも亦た其の勇士の肖像を紀念とし、其の像を留めて功績を追慕し、且つ遺族の哀情を慰藉するは、正に之れ同胞たる國民の任務況んや之を一般の小學校に配置して、兒童の敎育に資するときは、忠君愛國の志氣を養成する稗益あるべし、今回秦三八なる人あり、其擧を計畫せり、蓋し同氏は日清日露の兩役に從軍し、功を以て勳記を賜はりしもの、目下警察新聞社を起して其社長たり、氏は義勇の同情に深く其忠靈を百世に旌はし、且つ其遺族に對する慰藉を圖るを以て、己れの任務の如く考へ、熱誠此事に從ふ、而して其方法を聞くに其名譽の戰病死者の寫眞を廣く其遺族に求め、之れに勳章を佩ばしめ、更らに之を大形の寫眞に複寫し、且つ美麗なる裝飾を加へて一個の扁額とし、最も低廉なる製作實費を以て、普く之を遺族の方々に頒ち猶ほ全國の小學校に配置して、兒童敎育の資に充つるに在りと、而して此擧固と國家的同情の觀念に基ひて起りしものなれは、毫も私利に干するの嫌なしと云ふ而して其扁額作製の方法、及代價申込の手續は左の如し

▲製額實費は甲種(大形)金緣硝子入縱二尺一寸三分橫一尺六寸三分一枚價金六圓五十錢外に荷造發及遞送料金五拾錢、乙種(中形)金緣硝子入縱一尺六寸三分橫一尺三寸五分一枚價金四圓三拾五錢外に荷造費及遞送料金四拾錢、丙種金緣硝子入縱一尺三寸六分橫一尺一寸三分一枚價金二圓八十八錢外に荷造費遞送料金三十錢なり

▲寫眞引延ばしの價金(額緣及硝子を除きたるもの)は甲種九圓十錢、乙種三圓五十錢、丙種二圓二十錢なり

▲申込手續は其申込者は戰病死者の寫眞一葉と其死者に關する事項即ち所屬隊號並に官氏名、死亡の年月日及地名、年齡、位記勳等(勳章は種類を明にすること)甲乙丙種何れか入用の分を明記し、且つ前金又は代金引換小包郵便たること等なり

▲愛國彰義會の所在地は東京淀橋町字柏木百二十八番地なり

◉五二會紀念帛紗　五二會を覗いた節兼々聞き及びし五二會紀念帛紗と云ふをどんなものかと買つて見ると鹽瀨にあづき色と鼠地で同會意匠甲種繪葉書を顯したもので色の取り合せが中々よく却つて實物よりも高雅のものであつた價は壹圓貳拾錢たしかぺーパに東京人形町上總屋吳服店競技染としてあつたと思つた一寸つと面白き趣向てある

優等清酒

於五二共進會 有功金牌受領

壜詰酒の覇王

發賣元 洋酒食料品問屋

東京日本橋區てうふり町通り

高橋商店

電話浪花千五百六十一番

HAIR—ROLLS U. S. Ptaent.

REGISTERED TRADE MARK

◉米國最新 束髮前髮じん

ヘヤロール

◉ヘヤタイは 貴婦人用の束髮元結にして切る事又は結ふ手數を省き一本あれば半としの齡命を保つ德用便利の品

▲流行の「エス卷」結に最も必要▲解き事「ヘネ」の如く伸縮自在▲鬢を出すには、なか程を糸にてくくり長くせば格好宜し

賣捌所 各地和洋小問物店

日本一手販賣元 東京市京橋區鍋屋町一番地 日加商店

登錄商標 N.R. CO

ゴム裏雪踏

◉發賣元 東京市神田區上白壁町九番地(電話本局貳千五百五十參番) 今井商店

◉販賣所は全國到る所の有名なる履物店にあり(近頃粗惡なる類似品あり商標に御注意を乞ふ)

於五二共進會 進歩銀牌受領

美術織染物諸品

東京日本橋區人形町通り 上總屋吳服店 電話浪花六百十番

尚又同會内にて五二會甲種繪はがき應用紀念帛紗販賣仕候

一御簞笥 一御長持 一御婚禮 一道具一式

其他御注文之品確實調製仕候

東京市日本橋區小傳馬町壹丁目七番地 上初簞笥店

◉成功セル電氣應用美顏術

本術ハ親シク歐米斯界ノ專門大家ニ就キテ專ラ學修シタル最モ成功セルニシテ皆ニ顏面ノあざ、しみ、黑色、あれ、にきび、そばかすノ除療其他去皺、赤鼻、隆鼻等顏貌ヲ好クシ顏面ヲ美ニスルノミナラズ神經系ノ勇壯ニ血液ノ循環ヲ善良ナラシムル等ハ既ニ歐米大家ノ確證セル所也 美ヲ希望セラル、貴婦人諸嬢ハ何卒陸續御光來ノ榮ヲ給ハンコトヲ

NS式電氣應用美顏術 白色艶

嶄新流行 婦人束髮並洗髮

東京日本橋區本町一丁目十四番地 NS式婦人化粧師 莊司直子(電話本局三八三番)

◉色白く艶をだす

松澤ホーサン石鹸(大形一個廿錢 小形一個十錢)

◉近頃にせ物多し御買求の節は商標及松澤名義に御注意

◉當市内は勿論到る所賣藥小間物化粧品店に於て販賣す

東京本石町四丁目 芳香藥種問屋 ムスク香水本舖 松澤常吉

一圓五十錢以上 衛生便器

改良樋箱

便器類陳列專賣店 水盤腰掛敷瓦水灑

京橋銀座壹丁目西裏通り⊕小柳陶器裏店

尚⊕京橋勸業場内より縱覽御隨意

諸陶器廉價販賣 京橋銀座一 電新千七十二

衛生便器 改良樋箱 發賣元⊕小柳商店

●市内は何方にても物品御屆申上べく候也●

著者が「愛國婦人」社說として執筆せられたるものは收めて本書にあり

女子高等師範學校敎授 文學士 下田次郎氏著

新女訓

菊版美本一冊三百三十四頁 定價八拾錢 郵稅拾錢

本書は戰勝後の新しき日本に於て、婦人は如何なる覺悟を以て生活し、働かざるかを說けるものなり。著者は我國女子敎育の專攻家にして、其旺盛なる元氣と、國を思ひ婦人を念ふ至誠の、凝りて成れるものは、即ち本書なり加ふるに、其思想の穩健にして多方面なる、其行文の縱横にして機智に富める、茶者を待て始めて在るもの。實に婦人の力たり、信念たり、生活の源泉たり、活動の元動力たるものなり。されは苟も今後の日本に於て家庭を治め、子女を敎育し、國家社會の爲めに盡さんと欲するの婦人及び其準備の時代に在る令孃女學生諸氏の必讀すべき唯一の良女訓書たり、戰後婦人に供呈せらるゝ第一の寶典たりといふを憚らず、請ふ愛讀を賜らんことを。

發行所 東京市神田區錦町一丁目 特電話本局二四三八番 明治書院

「愛國婦人」を愛讀する者は本書を讀まさる可らす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毎々御愛顧を蒙り難有御禮申上候陳ば當店御染物の
儀は又日々に相増し候に付ては新年用御染物等何卒早く御
注文被下度候へば御急ぎの御用品も期日に間違なく
自然おくれ勝に相成り候間此段豫め御承知被下度謹て御願申上候

京都市四條通御旅町南側
ゑびすまる市
熊谷呉服店
長電　三十五番

各國帝室及ヒ王家御用
ネッスレスミルクフウド

歐洲諸國及本邦名醫ノ讃辭ヲ辱フセル者ナリ、小兒、病者又平素不消化ニ苦ム者ニ適當ナル最良滋養食物ナリ。最モ盛ニ藥舗洋酒食料品店ニ於テ販賣ス

都足袋粹乃友

○都足袋ハ曩ニ農商務省ニ出願シテ登錄商標專用ヲ得タル物ナリ
○都足袋ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人粹士ノ歡迎ヲ受ケツヽアリ
○都足袋ハ踵ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フコトナシ
○都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ具合適良ニシテ縫目ノ破綻スル虞ナシ
○都足袋ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上尠ナカラザル效力ヲ有セリ

三重足袋君の益

○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ優ニ群ヲ拔クノ耐久力ヲ有ス
○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ冬季ハ寒ムサヲ防グ効力ヲ有ス
○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ脂肪ノ滲出ヲ遮ギリ體溫ヲ保ツノ効力アリ

龜屋

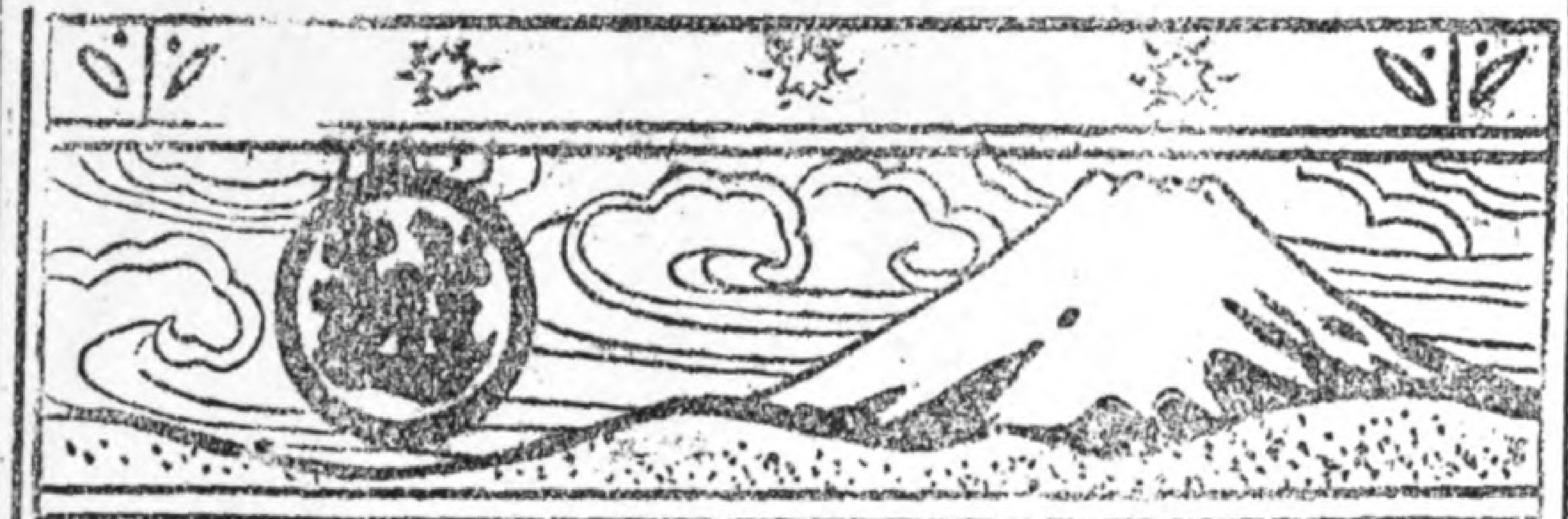
東京日本橋室町三丁目　**龜屋足袋店**
電話本局一七一二番　宮内清兵衛（略電信カメヤヌカ）

登錄商標
赤門 白粉

近來幸に學者社會にも東洋人種に適當なる白粉の必要を認られ斯道博士方々研究の結果**無鉛無害**にして**肌**に**のり**のよき完全の白粉を發明せられ今般廣く需用に應ずる爲に其製造發賣を特に指定せられたるは弊家の大に**名譽**且つ感謝する處なれば其高意に背ず原料を精撰し價格も一般の需用に適するを務め製造し「**赤門**おしろい」と名附け販賣するものなれば御愛顧あらんことを希ふ

赤門白粉　**煉** ニッケル製のネヂ蓋付 金二十錢　**水** 角瓶一本宛箱入體裁美麗 金二十五錢
赤門とは帝國大學を因みて附したるなり御求めの節は赤門に御注意を乞ふ

製造發賣元　東京馬喰町　**長瀬富郎**
特約店　花王石鹼本舗　市內は勿論各地有名の和洋小間物化粧品及藥店にあり
五二共進會に於て品質の善良なるを認められ**進步金牌**を受領せり



季節向き新柄物漏れなく取揃へ店內一面に陳列致し置候間御來觀被成下候樣奉希上候
地方よりの御註文は御書面にて御申付被下度く即日小包郵便を以て御屆け可申上候尚ほ註文御案內書は御一報次第呈上可仕候

三越呉服店
東京日本橋通駿河町

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本家庭百科事彙
實費特賣期間を短縮す

(文學博士芳賀矢一先生 文學士下田次郎先生 編纂)

全社會の耳目を集中せしめ洛陽の紙價を貴からしめたる本書の刊行は特價販賣期限の半ばに達せざる今日既に豫告特賣部數二萬以上の申込に接せり。此勢にて進まんには今後の三旬を以て恐らくは十萬の數を超過するならん。發賣高の多々際限なきは本社の最も喜ぶ所なれども紙質、印刷、裝釘の完美を保つ上に於て此際無限の高需に應ぜんとは時日の上よりも價格の上よりも事實上到底不可能の事たるを如何にせん。而も亦特賣期限中直に特賣を撤回するは大方の眷顧に酬ゆる所以に非るを以て十二月十二日迄の特賣期限を短縮して本月三十日迄とし本月中御申込の分に向っては敝房の全力を擧げて奮って其責務を盡さんとす。江湖博雅の君子偏に此意を諒察せられんことを。

▲大册 挿畫入 見本 郵券四錢封入御申越次第進呈す。

(甲種)五圓五十錢 着金順ニヨリ送本 (乙種)六圓 來ル廿日迄ニ壹圓添申込ミ滿期後六十日間ニ殘餘ヲ拂込ム事但完了ノ上送本ス

▲遞送料市內五錢市外五十錢臺灣清韓各廿錢增シ

東京神田 合資會社 冨山房

郵便振替貯金口座五〇一 (電話本局一千三十六番)

女子高等師範學校習字專任囑託

岡田起作先生編並書

かなまなぶ帖　上卷定價拾八錢 下卷定價貳拾錢

大井川帖　全壹册 定價拾六錢

古今和歌集序　全壹册 定價貳拾錢

行書蘭亭帖　全壹册 定價拾貳錢

真草千字文　全壹册 定價貳拾錢

楷書嘉言帖　全壹册 定價拾五錢

女子書翰文　上卷定價廿五錢 下卷定價廿八錢

(以上何れも郵稅を要せず)

大寶閣　東京市神田區小川町拾參番地　大野書店

第二回新學期開始

大日本淑女學會

高等女學校程度の講義錄發行

◉會員大募集　目下入會の最好機

▲事情があって高等女學校に入る事が出來ぬ人の爲めに『女學講義錄』を發行し僅に二ヶ年間に高等女學校程度の教育を完全に正則に授けます

▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません。本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いやうにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小說を每號附錄とします

▲本會の講師は皆な斯道專門の大家で且つ教育に充分經驗のある方のみですから講義は只親切と云ふ事を主として丁寧懇篤に說いてありますから本會々員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です

▲本會講義錄は右に述べし通り最も完全したものでありますが、會費は極めて少額で都會一ヶ月の遊學費で優に全期を終る事ができます。

批評一斑

▲中央新聞評　講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也

▲每日新聞評　米國の通信教授法を參酌せるもの文字平易說明懇篤を盡くせり

▲二六新聞評　高等女學校の全科程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり

▲日々新聞評　講義は總べて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なき[illegible]たり

▲都新聞評　講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を拓き得可し

▲報知新聞評　講義錄多しと雖も實益と趣味と併て有する事斯くの如きは稀也

上掲の批評を御覽にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲規則書▼ 端書にて申込あれば直に郵送す可し

◉東京神田南甲賀町 大日本淑女學會 (電話本局三千四番)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醫家處方調劑

調劑之正確

一醫師ノ處方箋ニ係ル調劑ハ極メテ丁寧綿密ニ且ツ迅速ニ調劑ス

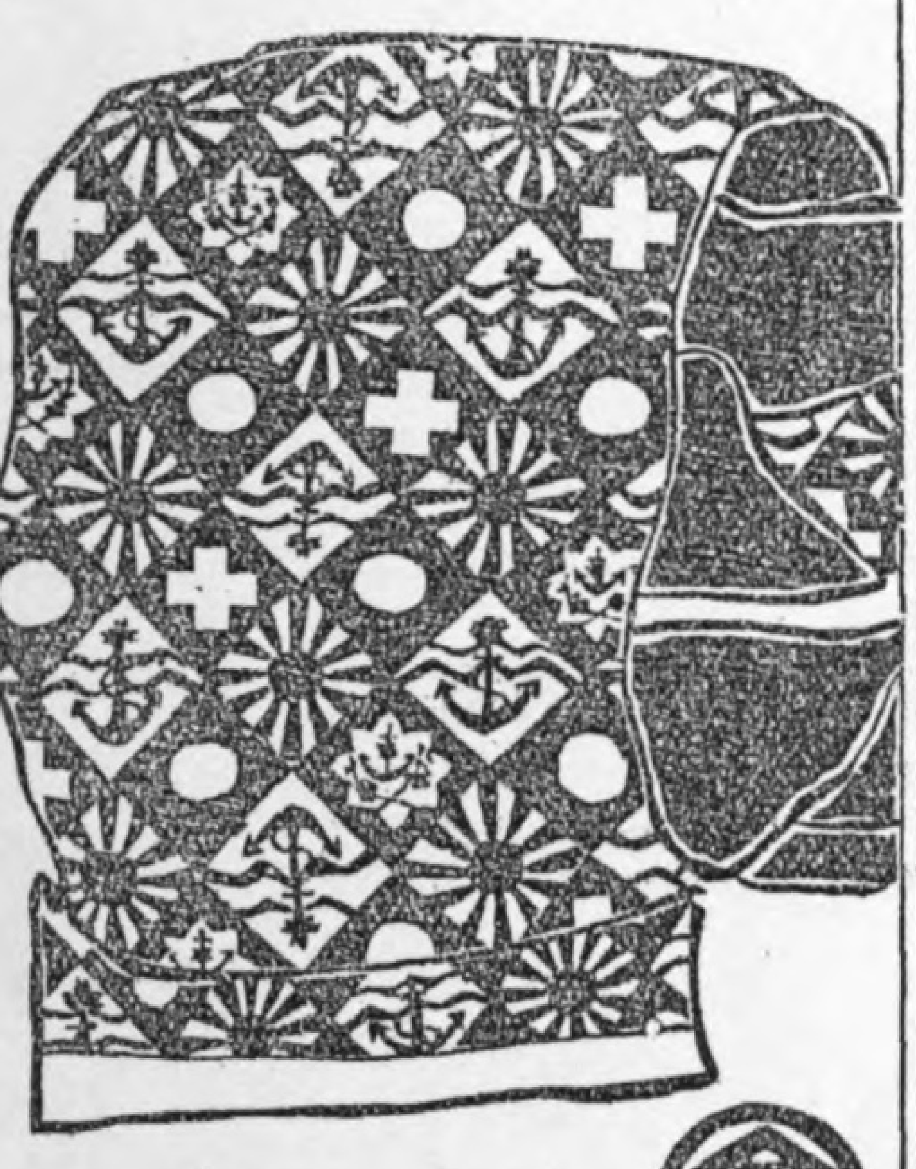
一當藥局ハ既ニ久シク醫家諸彥ノ御信認ヲ辱ウシ尚東京郵便局ノ指定藥局タルノ光榮ヲ有ス

一藥局トシテノ設備又大ニ完全シ醫家ノ處方箋ニ依ル調劑ハ必ズ主任藥劑師之レヲ擔任ス

藥品之純良

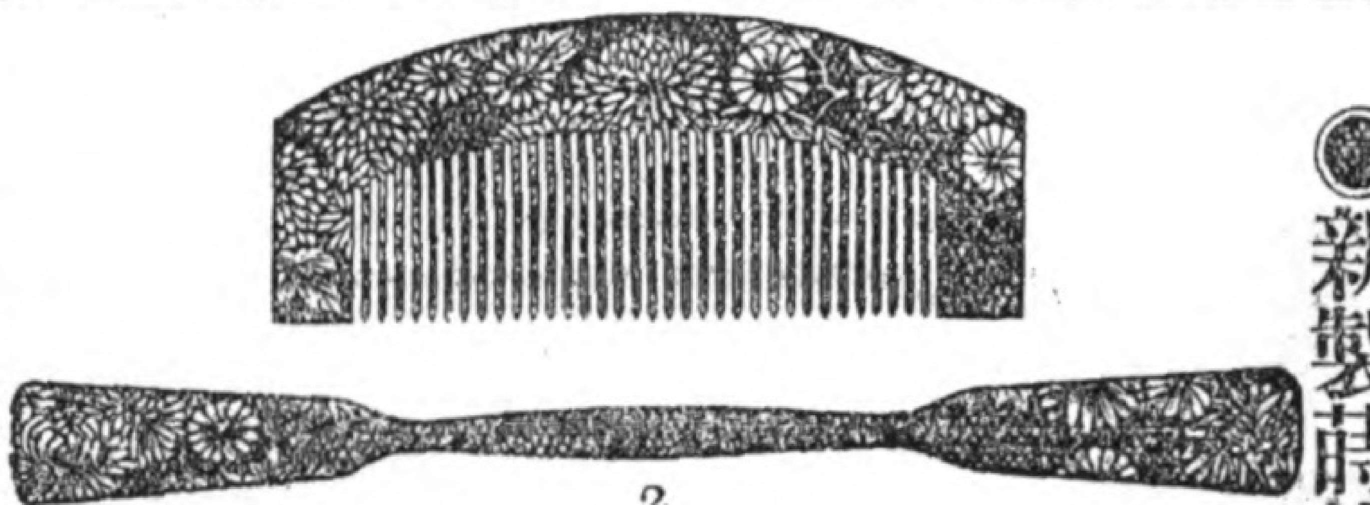
東京神田今川小路（電車停留場前）
電話本局一五一八
尾澤純良堂
藥劑師　大西橘三　藥局
藥局主任藥劑師　田中利弘

愛國婦人會御用品
萬歲帶
意匠名稱登錄第九二三二號



たかしまや
飯田呉服店

新製蒔繪櫛笄



2

形ちは流行の新橋形又は半京形に造り金地青金地又は切金地に意匠大家の考案になれる最新の圖案を蒔繪せしもの或は眞黒地に金銀青貝を以て新選の模樣を芝山象嵌なしたるもの等時好の品數多出來候に付何卒御用命あらんことを

〇本〇製一組之價
大形拾圓ゟ五拾圓
中形六圓ゟ廿五圓
小形四圓ゟ拾圓

〇〇張製一組之價
大形三圓ゟ拾圓
中形二圓ゟ六圓

東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
特電話新橋五五一番

白粉の注意

公衆衛生の問題が白粉に及んだ結果世間は鉛毒の怖しい事に心注いたやうであるが巧みに廣告に欺かれて未だ有害品や劣等品を用ひて居る女がある夫も僅少の金錢を損する丈なら憂ふるに足らぬが鉛毒の爲に終生不治の病氣を招くやうになると後悔しても取返しが附かぬ然らば何白粉を用ひたら安心が出來るかと云ふに夫は『御園白粉』に限る此白粉は畏多くも高貴の御料に召させ給ふ品で無鉛は勿論腐に乘りが良く消毒の藥まで調合してあれば報知新聞萬朝報國民東京日々等の責任ある大新聞が此の無鉛白粉中の最優等品也と證明されたが評判の好いものは眞似られる道理で『御園白粉』に僞物が出たから需要者は『長谷部仲彥氏』發明の張紙と商標にある『製造元胡蝶園』及び『御料』の文字を一應認めてお求めなさるが宜しい以上三點の違つて居るのは無論僞物である夫から『御園白粉』の種類は▲煉製御園白粉▲水製御園白粉▲粉製御園白粉▲高貴化粧水御園とき水▲洋風御園クリーム▲御顏なほし御園打白粉▲濃厚化粧水四季の花▲等で此發賣元は

東京日本橋區橋町四丁目　丸見屋商店

御半ゑり新もよういろ〳〵

ゑり善

日本橋堺町通葺屋町　電浪一二七〇番

洋織物　裁縫物
毛布　敷物類
何なりとあり有まいと御思召品も御尋下さい

消化新藥

醫學博士　井上善次郎氏の實驗報告に曰く　胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉居を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の內、澱粉を不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峯博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す。

醫學博士　栗本東明氏の實驗報告抄錄

高峯博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の效力を有するとは業に既に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著效を確認すると共に此種の患者に每に之れが服用を勸告する者なり

錠劑粉末各大小容器入各地藥舗にて販賣す模造品あり必ず高峯氏タカヂアスターゼと乞御指定。實驗報告集は無代進呈

幼少年御婦人等の家庭用空氣銃射的銃等漏始めとし青年大人紳士諸君の旅行護身携帶用自働拳銃射的銃等何れも英米獨佛製最新て精巧完全なるもの各新式各種類に捗りをれなく取揃へ置候

正價表は御一報次第郵呈仕候

振替貯金拂込用紙は何枚にても郵呈仕候

國何れの地に御住居の方にても横濱本店て實價買取同一の便法あり

詳細は御尋に對し敏速御答可仕候

白ゆり白粉は東京市内に賣捌つゝある白粉舶來品共四十四種に付き內務省衛生試驗所の試驗に於て無鉛白粉として第一に表明せらる

白ゆり白粉は梨園の花たる芝翫、梅幸、高麗藏、羽衛門等の常に愛用せらるゝ最優等無毒の逸品なり

東京本所　井手製

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本元祖西川風琴

高尚なる音樂の嗜好は

家庭の和樂を作る基なり

宮内省御用東京音樂學校御用

横濱市日の出町二丁目

西川オルガン及ピヤノ製造所

東京販賣店　十字屋樂器店

關西代理店　武内樂器店

(西川風琴の聲調は舶來品に劣らずと專門家の讃詞を得たり)

專賣特許

消毒用として皮膚を損するの虞れなし

CHEMISTSOAP

ケミスト石鹸

(衛生家の一日も欠く可からざるもの)

御試用の上該品の特長を知り給へ

●化粧料

●消毒用

●全國到る處の藥種店及び化粧品店にあり

●顯れましゝ又世界無比の石鹸

化粧用として好ましき愛すべき匂ひを發す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麹町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局 三、三〇〇番 四一番 三七番 (特)一〇二番
一定期預金 年五分
一當座預金 日歩七厘
一特別當座預金 日歩一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話(特)本局六七三番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
特別當座預金 同日歩 壹錢壹厘

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社 第三銀行
電話浪花四一二 浪花四五一番
預金利子
定期預金 六ヶ月以上 年五分
當座預金 百圓に付日歩 八厘
別口當座 同日歩 壹錢
全國送金每に手数料低減
其他銀行一般の業務は便宜取扱可申候

スコット乳薬
咽喉諸症肺炎其他貧血病ニ著大ノ効験アリ早ク試賜ヘ
說明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号
スコット乳薬部ヘ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

天下一品
醸造元 千葉縣野田町 茂木佐平治
最上醬油
賣捌所は各地とも有名なる酒醤油店に有之候

袴乃親王
東京日本橋區長谷川町 卸部 美濃磯本店 電話浪花二八五九番
本郷區本郷五丁目 小賣部 美濃磯本郷支店 電話下谷一四一五番
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

營業品概要
○各種時計類附屬品
○双眼鏡及アルズム鏡
測量用諸器械
製圖器及繪具
氣象觀測器械
貴金屬美術品
東京銀座四丁目
服部時計店
電話新橋長七一四、一三〇

男女 新形帽子各種着

於五二共進會 進歩銀牌受領

正札附陳列場
西洋小間物 帽子各種 婦人用小間物
中久商店
東髪用具 化粧品 内外玩具 文具
東京神田小川町通り 裏神保町一番地

醫院案内

院長 醫學博士 榊順次郎 每日午前診察
副院長 醫學士 久保徳太郎 每日夕刻診察
婦人科産科榊病院
東京麹町三番町廿三（電話番町三九五）

内科小兒科 特に呼吸器病
麹町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀬元九郎
電話番町八二二番

水原産科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八百〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立生婆學校の設あり

婦人病專門
院長 櫻井克己
芝明舟町十九虎門外宮機前
電話新橋三三二四
櫻井醫院

小兒病診療 宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
電話下谷七一八番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

小兒科一般
特に乳兒の疾患及び育兒法小兒皮膚病
拙者儀久しく獨逸伯林大學に於て斯學を專攻し先般歸朝從事す
日本橋數寄屋町一 電本百八十
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に脳脊髄神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰内科醫院

産科婦人科病院
東京日本橋區濱町參丁目七番地
楠田病院

内科一般
東京神田區美土代町三丁目十七番地
午前宅診 午後往診
板垣亭
電話本局貳千九百七十番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

御料
煉香油
貴顯紳士淑女毛髮用
カスガオイル
水油代用品 カスガオイル 衛生第一
發賣元 東京 小川潮華園
小間物店 化粧品店ニ販賣ス

登錄商標 吉

弊店儀昔より袴專業各位の御引立を蒙御厚禮奉申上候
○絹木織綿毛等何袴にても特別大勉強仕候猶今般新案登錄金具附紐止袴販賣仕候此袴は男女の御貴君樣に御便利に候間何卒御袴御用向奉願上候

芝區日蔭町通源助町十三
住吉屋兵衛
電話新橋千五十六

冬物輸着
◉新着英國製
◉更紗各種
◉小兒上衣
羽根フトン
◉ボアー（ネグレット）
◉婦人、小兒用帽子
◉キャンバス、及ビ
◉アイスウール各色
◉肩掛、長卷、膝掛
◉旅行用化粧道具
◉外西洋小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目
伊勢與
三枝小賣店
電話新橋三九二七番

煉香油パールは今回宮內省御買上品たる光榮を辱せり

煉香油 パール
貴婦人用 紳士用

パールハ學術的最良ノ煉香油ニシテ四季ニ適シ毛髮ヒゲヲ保護養生シ兼テノ悪臭ヲ去リ愛スベキ香氣ヲ有スル世界有數ノ逸品ナリ

發賣元 東京ハマ町
平尾分店

（ラクダ印）

（麝香石鹸）
ラクダ印麝香石鹸ハ高貴なる麝香に勝すべきミレーの香料を多量に含むが故壹度使用せば其香氣身体ハ元より手拭タオル、ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間ハ猶依然としてかほりを失なはざる効力ハ舶來品にも未だ見ざる特點を有す

○定價 大形廿錢 小形拾錢　一ヶ大

（熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり）

近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意
東京本石町三丁目十八番地芳香藥舗問屋
井上太兵衛

愛國婦人記者 手島益雄氏著

農家の幸福法

（前號廣告「理想の町村」は同一名稱あるにつき變更す）

二百ページ
定價金三十錢
郵税金四錢
十一月廿五日發行

本書は著者が專ら研究せる**家庭問題**を基礎として農家の幸福を增進する爲め、且つは町村の自治を發達せしむる目的を以て執筆せる者にして本編を上下二編に分ち上編は**家庭、教育、宗教、衛生、社會、產業、組合、官廳**等の各章に別ち最も新らしき着想を以て丁寧親切に說述し、婦人の庇護に勉むると同時に婦人の伸權方法を計り、圓滿なる**家庭の幸福**を得るの方法より、進んでは一町一村の幸福を計る事に及ぶ、第二編は「**如何にせば貧乏になれるか**」との題目の許に寓語を使用し、巧みに家庭の弊害を諷し、以て富裕なる家政を營む方法を示し「**臺所の改良方法**」としては著者が各名家及び簡便なる臺所の實見に依る新工夫を發表し「**家庭曆の作り方**」に就ては著者の苦心による新方法を掲げたり以上各章の內に又各項を別ち**文章は最も平易**なる言文一致體を以てものし、猶總ふりがなを附し**數葉の繪畫**をも挿加へたれば、家庭に於ける**主婦**は素より其**主人**に於ても苟も家を善く齊へ國を治め一家并に一國の幸福を計んとの希望を持つものは本書を繙かさる可らす

發行所 新公論社
取次所 愛國婦人發行所
東京本郷區東片町百十一番地
東京麹町 愛國婦人會內

金銀盃類

秋の月にも春の花にも盃ならして何んの樂しみかあらん殊に戰後功を論し賞を行はるゝにあたり祝盃として用ゐらるゝには又ふさはしき意匠の盃なかるべからずまた賞品として御授與せらるゝ盃は弊堂のものに限るへし

宮內省御用達
東京市下谷池の端仲町
玉寶堂
電話下谷（特九六五番 一二四四番）

日本第一の大勸業場
（本場の特色）
◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市內無賃て配達致します
◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます

東京新橋角
電話新橋（一六五二 三三六一）

帝國博品館

各女學校 御用
附屬品并に造花器械類一式

東京市日本橋區橫山町一丁目十六番地
天野卯兵衛
電話（長）浪花一六四三番

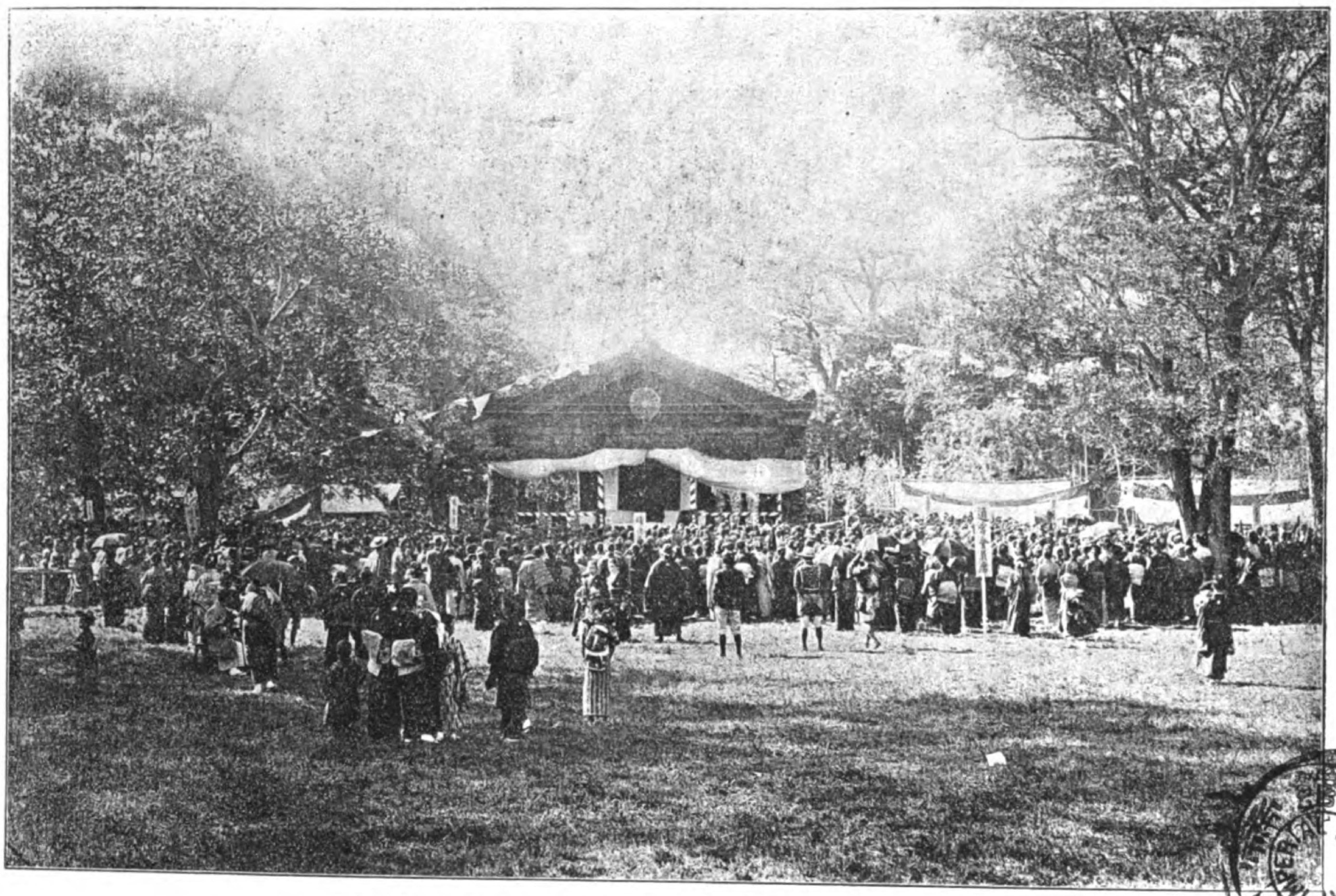
營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星堂
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

明治三十九年十一月廿日發行（毎月五日二十日二回）
（定價金三錢 一ヶ月三十六錢 郵税不要 廣告料一行金六拾錢）
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄
發行所 東京麹町 愛國婦人發行所
印刷所秀英舍工場

明治三十九年十一月廿日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

愛國婦人第百拾六號附錄



北海道支部第一回總會式場光景

發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

IMPERIAL LIBRARY

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN